
コストと使用状況レポート

ユーザーガイド



コストと使用状況レポート: ユーザーガイド

Copyright © 2020 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon's trademarks and trade dress may not be used in connection with any product or service that is not Amazon's, in any manner that is likely to cause confusion among customers, or in any manner that disparages or discredits Amazon. All other trademarks not owned by Amazon are the property of their respective owners, who may or may not be affiliated with, connected to, or sponsored by Amazon.

Table of Contents

AWS のコストと使用状況レポート とは	1
仕組み	1
データディクショナリの使用	1
AWS CUR のダウンロード	1
一括請求 (コンソリデेटィッドビルディング) ユーザー	2
レポートの作成	3
コストと使用状況レポート の Amazon S3 バケットの設定	3
Rates	4
コストと使用状況レポート の作成	4
レポートの管理	6
レポートの詳細の表示	6
S3 のレポートへのアクセス	6
AWS CUR 配信タイムライン	6
AWS CUR の形式	6
以前のレポートの保持	7
以前の コストと使用状況レポート の上書き	7
コストと使用状況レポート のマニフェストファイル	8
レポートの編集	10
Athena を使用したレポートのクエリ	11
Athena 統合の設定	11
レポート用の新しい S3 バケットの作成	11
新しいレポートの作成	13
AWS CloudFormation テンプレートを使用した Athena の設定	13
Athena の手動設定	14
Athena テーブルの作成	15
レポートのステータステーブルの作成	15
レポートパーティションのアップロード	16
Athena クエリの実行	16
列名	17
その他の リソース	17
Amazon QuickSight へのレポートデータのロード	17
Amazon Redshift へのレポートデータのロード	17
データディクショナリ	20
ID の詳細	20
identity/LinItemId	20
identity/TimeInterval	20
請求の詳細	20
B	21
I	21
P	21
明細項目の詳細	21
A	22
B	22
C	22
L	22
N	23
O	24
P	24
R	24
T	25
U	25
予約の詳細	26
A	26
E	27

M	28
N	28
R	29
S	29
T	30
U	31
料金詳細	32
L	33
P	33
R	33
T	33
製品詳細	33
A	34
C	34
D	34
E	35
F	36
G	36
I	37
L	38
M	39
N	39
O	40
P	41
R	43
S	43
T	44
U	45
V	45
リソースタグの詳細	46
resourceTags/user:creator	46
resourceTags/user:name	46
resourceTags/user:owner	46
resourceTags/user:purpose	46
Savings Plans の詳細	46
A	46
E	47
I	47
O	47
P	47
R	48
S	48
T	49
U	49
Cost Category の詳細	49
costCategory/Project	50
costCategory/Team	50
costCategory/Environment	50
ユースケース	51
Savings Plans を理解する	51
Savings Plans の明細項目	51
予約を理解する	53
予約の明細項目を理解する	54
償却された予約データを理解する	56
サイズの柔軟な予約のモニタリング	57
オンデマンドキャパシティー予約のモニタリング	59

レガシーレポート	62
請求明細レポート	62
DBR から AWS CUR への移行	62
未使用予約のコストの確認	66
毎月のレポート	73
毎月のコスト配分	73
AWS の使用状況レポート	74
カスタマーサポートへの問い合わせ	75
セキュリティおよびアクセス許可	76
クォータと制限	77
コストと使用状況レポート	77
ドキュメント履歴	78
AWS の用語集	79
.....	lxxx

AWS のコストと使用状況レポートとは

AWS のコストと使用状況レポート (AWS CUR) には、利用可能な最も包括的なコストと使用状況のデータが含まれています。コストと使用状況レポートを使用して、所有する Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットに対して AWS 請求レポートを発行できます。コストを時間または日、製品または製品リソース、または自分で定義したタグごとに分類したレポートを受け取ることができます。AWS は、1 日に 1 回、カンマ区切り値 (CSV) 形式のバケットでレポートを更新します。Microsoft Excel または Apache OpenOffice Calc などのスプレッドシートソフトウェアを使用してレポートを表示することも、Amazon S3 API を使用するアプリケーションからレポートにアクセスすることもできます。

AWS のコストと使用状況レポートは、AWS の使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を示します。各レポートには、AWS アカウントで使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの固有の組み合わせごとに明細項目が表示されます。AWS のコストと使用状況レポートは、時間単位または日単位で情報を集約するようにカスタマイズできます。

AWS のコストと使用状況レポートは以下を実行できます。

- Amazon S3 バケットにレポートファイルを配信する
- レポートを 1 日に 3 回まで更新する
- AWS CUR API リファレンスを使用してレポートを作成、取得、削除する

コストと使用状況レポートの仕組み

各更新は累積的であるため、コストと使用状況レポートの各バージョンには、以前のバージョンからのすべての明細項目と情報が含まれます。生成されるレポートは月間の推定であり、AWS のサービスを引き続き使用するに従って、当月の残余期間中に変わる場合があります。AWS は、毎月末にレポートを確定します。確定されたレポートには、ブレンドコストと非ブレンドコストの計算が含まれ、当月の使用状況がもれなく記録されます。

AWS が請求額の確定後に返金、クレジット、またはサポート料金を当月の使用状況に適用した場合、AWS は確定後のレポートを更新することがあります。これはレポートの作成時または編集時にオプションとして設定できます。レポートは、Billing and Cost Management コンソールのコストと使用状況レポート ページでレポートを作成した日から 24 時間以内に利用可能になります。

データディクショナリの使用

レポートを設定したら、使用状況とコストを詳細に分析できます。データディクショナリには、レポートに表示される列が定義や例とともに一覧表示されます。

明細項目の定義を表示し、対応するサービスの詳細なリストをダウンロードするには、「[データディクショナリ \(p. 20\)](#)」を参照してください。

AWS のコストと使用状況レポートのダウンロード

Amazon S3 コンソールからレポートをダウンロードして、Amazon Athena を使用してレポートにクエリを実行したり、レポートを Amazon Redshift や Amazon QuickSight にアップロードしたりできます

- Amazon S3 バケットの作成と Athena を使用したデータのクエリの詳細については、「[Amazon Athena を使用した コストと使用状況レポート のクエリ \(p. 11\)](#)」を参照してください。
- Amazon Redshift へのアップロードの詳細については、「[Amazon Redshift へのレポートデータのロード \(p. 17\)](#)」を参照してください。
- Amazon QuickSight へのアップロードの詳細については、「[Amazon QuickSight へのレポートデータのロード \(p. 17\)](#)」を参照してください。

一括請求 (コンソリデेटィッドビルディング) ユーザー

の一括請求機能を使用する場合 AWS Organizations、Amazon S3 請求レポートを受け取るために指定するバケットは、マスターアカウント 準備します。メンバーアカウントが所有しているバケットで請求レポートを受け取ることはできません。一括請求を使用している場合は、メンバーアカウントごとにコストを明細化できます。

一括請求の詳細については、以下を参照してください。 [組織の統合請求](#) の AWS Billing and Cost Management ユーザーガイド

コストと使用状況レポートの作成

コストと使用状況レポートを作成するには、Billing and Cost Management コンソールのコストと使用状況レポートページを使用できます。次のセクションでは、コストと使用状況レポートの開始方法について説明します。

トピック

- [コストと使用状況レポートの Amazon S3 バケットの設定 \(p. 3\)](#)
- [コストと使用状況レポートの作成 \(p. 4\)](#)

コストと使用状況レポートの Amazon S3 バケットの設定

請求レポートを受信するには、レポートを保存するための Amazon S3 バケットを AWS アカウントに用意する必要があります。これらのレポートには、使用した AWS のサービス、これらのサービスを使用した時間、ストレージとの間で転送したデータの量、使用したストレージ領域の平均容量などが表示されます。既存のバケットを指定するか、バケットを作成できます。

ステップ 1. Amazon S3 バケットを作成します。バケットを作成するには、「[バケットの作成](#)」(Amazon Simple Storage Service コンソールユーザーガイド)を参照してください。

ステップ 2. バケットにレポートを配信するためのアクセス許可をに付与する

Amazon S3 バケットにレポートを配信するためのアクセス許可を Billing and Cost Management に付与するには

1. <https://console.aws.amazon.com/s3/> で Amazon S3 コンソールを開きます。
2. バケットのリストから、レポートを受信するバケットを選択します。
3. [Permissions] を選択します。
4. [バケットポリシー] を選択します。
5. 次のテキストをバケットポリシーエディタに貼り付けます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:GetBucketAcl",
        "s3:GetBucketPolicy"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
```



```
"Action": "s3:PutObject",  
  "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname/*"  
}  
]  
}
```

6. **bucketname** の部分はお客様のバケットの名前に置き換えます。
7. [Save] を選択します。

Rates

Amazon S3 バケットに保存されている請求レポートは、標準の Amazon S3 レートで請求されます。詳細については、[クォータと制限 \(p. 77\)](#) を参照してください。

コストと使用状況レポートの作成

コストと使用状況レポートを作成するには、Billing and Cost Management コンソールのコストと使用状況レポートページを使用できます。

Note

- AWS から Amazon S3 バケットへのレポートの配信を開始するまで、最大 24 時間かかる場合があります。配信の開始後、AWS は少なくとも 1 日 1 回 AWS のコストと使用状況レポートファイルを更新します。
- 詳細な請求レポート (DBR) は、[Data refresh settings (データの更新設定)] を選択するかどうかにかかわらず、自動的に更新されません。DBR を更新するには、サポートケースをオープンします。詳細については、以下を参照してください。[請求書についてカスタマーサポートに連絡する](#) の AWS Billing and Cost Management ユーザーガイド。

コストと使用状況レポートを表示するには

1. Billing and Cost Management コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home#/>) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで [コストと使用状況レポート] を選択します。
3. [Create report (レポートを作成)] を選択します。
4. [レポート名] に、レポートの名前を入力します。
5. [Additional report details] で、[Include resource IDs] を選択して各リソースの ID をレポートに含めます。

Note

リソース ID を含めると、各リソースの個別のライン アイテムが作成されます。これにより、コストと使用状況レポート ファイル数が大幅に増えています。AWS 使用。

6. [Data refresh settings] で、請求額の確定後に AWS で返金、クレジット、またはサポート料金をアカウントに適用した場合に AWS のコストと使用状況レポートを更新するかどうかを選択します。レポートを更新すると、新しいレポートが Amazon S3 にアップロードされます。
7. [次] を選択します。
8. [S3 バケット] で、[設定] を選択します。
9. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。
 - ドロップダウンリストから既存のバケットを選択し、[Next (次へ)] を選択します。
 - バケット名と、新しいバケットを作成するリージョンを入力し、[Next (次へ)] を選択します。

10. バケットポリシーを確認し、本方針が正しいことを確認しました 選択して 保存.
11. [Report path prefix (レポートパスのプレフィックス)] に、レポート名に付加するレポートパスのプレフィックスを入力します。

このステップは Amazon Redshift または Amazon QuickSight ではオプションですが、Amazon Athena では必須です。

プレフィックスを指定しない場合、既定のプレフィックスは、ステップ 4 でレポートに指定した名前とレポートの日付範囲です。形式は次のとおりです。

```
/report-name/date-range/
```
12. [Time granularity] で、次のいずれかを選択します。
 - Hourly: レポートの明細項目を 1 時間ごとに集計する場合に選択します。
 - Daily: レポートの明細項目を 1 日ごとに集計する場合に選択します。
 - 毎月 レポートの行項目を月別に集計する場合。
13. [Report versioning (レポートバージョンング)] で、レポートの各バージョンでレポートの以前のバージョンを上書きするのか、以前のバージョンに加えて配信するのかを選択します。

レポートを上書きすると、Amazon S3 ストレージコスト。新しいレポートバージョンを提供すると、時間の経過とともに請求データの監査性が向上します。
14. 対象: のレポートデータ統合を有効にする、コストと使用状況レポート 統合する Amazon Athena、Amazon Redshift、または Amazon QuickSight. レポートは、以下の形式で圧縮されています。
 - Athena: パッケージ形式
 - Amazon Redshift または Amazon QuickSight : .gz 圧縮
15. [次] を選択します。
16. レポートの設定を確認したら、[Review and Complete (確認して完了)] を選択します。

いつでも コストと使用状況レポート このセクションを Billing and Cost Management コンソールを使用して、レポートが最後に更新された日時を確認します。

コストと使用状況レポートの管理

次のセクションでは、コストと使用状況レポート (AWS CUR) の管理について説明します。

トピック

- [コストと使用状況レポートの詳細の表示](#) (p. 6)
- [Amazon S3 のコストと使用状況レポートへのアクセス](#) (p. 6)
- [コストと使用状況レポート設定の編集](#) (p. 10)

コストと使用状況レポートの詳細の表示

Billing and Cost Management コンソールのコストと使用状況レポートページを使用して AWS によって生成されたコストと使用状況レポートを表示できます。

コストと使用状況レポートを表示するには

1. Billing and Cost Management コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home#/>) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで [コストと使用状況レポート] を選択します。

コストと使用状況レポートのリストがページのダッシュボードに一覧表示されます。

Amazon S3 のコストと使用状況レポートへのアクセス

以下のセクションでは、状況別のレポートにアクセスする方法について説明します。

トピック

- [コストと使用状況レポート 配信タイムライン](#) (p. 6)
- [コストと使用状況レポートの形式](#) (p. 6)
- [以前のコストと使用状況レポートの保持](#) (p. 7)
- [以前のコストと使用状況レポートの上書き](#) (p. 7)
- [コストと使用状況レポートのマニフェストファイル](#) (p. 8)

コストと使用状況レポート 配信タイムライン

レポート期間中、AWS でレポートが更新されるたびに、AWS は新しいレポートと新しいマニフェストファイルを配信します。AWS は、請求期間が終了するまで、以前のレポートの内容に追加して新しいレポートを構築します。レポート対象の請求期間の終了後に、AWS は以前のレポートの内容を含まない新しいレポートを生成します。

コストと使用状況レポートの形式

コストと使用状況レポートは Amazon S3 バケットに保存された 1 つの .csv ファイルまたは複数の .csv ファイルのコレクションです。各レポートのサイズは 1 ギガバイトを超える場合があり、デスクトップ

スプレッドシートアプリケーションの容量を超えると、一部の行が表示されないことがあります。レポートのサイズが大半のアプリケーションで処理できる範囲を超える場合、レポートは AWS によって複数のファイルに分割された上で、Amazon S3 バケットと同じフォルダに保存されます。AWS CUR ファイルの具体的な構成や命名規則は、レポートの作成時に選択したパラメータによって異なります。

以前の コストと使用状況レポート の保持

以前の コストと使用状況レポート を保持することを選択すると、AWS CUR は次の Amazon S3 構成と命名規則を使用します。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<assemblyId>/<example-report-name>-<file-number>.csv.<zip|gz>
```

- report-prefix = レポートに割り当てるプレフィックス。
- report-name = レポートに割り当てる名前。
- yyyymmdd-yyyymmdd = レポートの対象となる日付の範囲。レポートは、日付範囲の終了時に確定されます。
- assemblyId = レポートが更新されるたびに AWS が作成する ID。
- file-number = 更新に大容量ファイルが含まれる場合、AWS は複数のファイルに分割する場合があります。file-number で単一更新内の複数のファイルが追跡されます。
- csv = レポートファイルの形式。
- zip または gz = レポートファイルに適用される圧縮タイプ。

たとえば、レポートは以下のファイルの集まりとして配信される場合があります。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/20160101-20160131/<123456789>/<example-report-name>-<1>.csv.<zip>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/20160101-20160131/<123456789>/<example-report-name>-<2>.csv.<zip>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/20160101-20160131/<123456789>/<example-report-name>-<3>.csv.<zip>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/20160101-20160131/<123456789>/<example-report-name>-Manifest.json  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/20160101-20160131/<example-report-name>-Manifest.json
```

AWS は、日付範囲内のすべてのレポートを同じ report-prefix/report-name/yyyymmdd-yyyymmdd フォルダに配信します。AWS によって各レポートに一意の ID が付けられ、日付範囲フォルダの assemblyId サブフォルダに配信されます。レポートのサイズが大きすぎて 1 つのファイルに収まらない場合は、複数のファイルに分割されて同じ assemblyId フォルダに配信されます。

以前のレポートを保持するときのマニフェストファイルの詳細については、「[コストと使用状況レポートのマニフェストファイル \(p. 8\)](#)」を参照してください。

以前の コストと使用状況レポート の上書き

以前の コストと使用状況レポート を上書きすることを選択すると、AWS CUR は次の Amazon S3 構成と命名規則を使用します。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-<file-number>.csv.<zip|gz>
```

- report-prefix = レポートに割り当てるプレフィックス。

- report-name = レポートに割り当てる名前。
- yyyymmdd-yyyymmdd = レポートの対象となる日付の範囲。AWS は日付範囲の終了時にレポートを確定します。
-
- file-number = 更新に大容量ファイルが含まれる場合、AWS は複数のファイルに分割する場合があります。file-number で単一更新内の複数のファイルが追跡されます。
- csv = レポートファイルの形式。
- zip または gz = レポートファイルに適用される圧縮タイプ。

たとえば、レポートは以下のファイルの集まりとして配信される場合があります。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-<1>.csv.<zip>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-<2>.csv.<zip><example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-<3>.csv.<zip>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-Manifest.json
```

Athena の仕様

AWS CUR の作成時に Athena サポートを選択すると、ファイルの命名規則は、形式と圧縮を除いて AWS CUR の上書きを選択した場合と同じになります。Athena AWS CUR ファイルでは、代わりに .parquet が使用されます。たとえば、レポートは以下のファイルの集まりとして配信される場合があります。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>.parquet  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/  
<cost_and_usage_data_status>  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-Manifest.json  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/<example-report-name>-create-table.sql  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyymmdd-yyyymmdd/crawler-cfn.yml
```

AWS CloudFormation の仕様

AWS CUR ファイルに加えて、AWS は AWS CloudFormation テンプレートも配信します。このテンプレートにより、Athena を使用して Amazon S3 データのクエリを実行するための AWS CloudFormation スタックをセットアップできます。AWS CloudFormation テンプレートを使用しない場合は、提供されている SQL を使用して独自の Athena テーブルを作成できます。詳細については、[Amazon Athena を使用したコストと使用状況レポートのクエリ \(p. 11\)](#) を参照してください。

コストと使用状況レポートのマニフェストファイル

AWS で AWS CUR を更新するときに、AWS は Amazon Athena、Amazon Redshift、または Amazon QuickSight に使用できるマニフェストファイルも作成して配信します。

マニフェストファイルは、命名規則を使用し、以下の項目を一覧表示します。

- これまでにレポートに含まれたすべての詳細列
- レポートが複数のファイルに分割された場合のレポートファイルのリスト
- レポートの対象期間およびその他の情報。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/<example-report-name>-Manifest.json  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/<assemblyId>/<example-report-name>-Manifest.json  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/<example-report-name>/year=2018/month=12/<example-report-name>-Manifest.json
```

以前の コストと使用状況レポート の保持

以前の コストと使用状況レポート を保持する場合、マニフェストファイルは日付範囲フォルダと assemblyId フォルダの両方に配信されます。AWS は、日付範囲の新しい AWS CUR を作成するたびに、その日付範囲フォルダに保存されているマニフェストファイルを、更新されたマニフェストファイルで上書きします。AWS は、同じ更新されたマニフェストファイルを、その更新のファイルとともに assemblyId フォルダに配信します。assemblyId フォルダのマニフェストファイルは上書きされません。

以前の コストと使用状況レポート の上書き

以前の AWS CUR を上書きすると、マニフェストファイルが month=mm フォルダに配信されます。マニフェストファイルは、レポートファイルとともに上書きされます。

Amazon Redshift の仕様

AWS CUR で Amazon Redshift サポートのオプションを選択すると、AWS は、レポートを Amazon Redshift にアップロードするために必要な SQL コマンドを含むファイルも作成して配信します。SQL ファイルは通常のテキストエディタで開くことができます。この SQL ファイルには次の命名規則が使用されます。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/<assemblyId>/<example-report-name>-RedshiftCommands.sql
```

RedshiftCommands ファイルでコマンドを使用する場合、RedshiftManifest ファイルを開く必要はありません。

Important

manifest ファイルは、copy ファイルの RedshiftCommands コマンドを使用してアップロードするファイルを決めます。manifest ファイルを削除すると、RedshiftCommands ファイルのコピーコマンドで問題が生じます。

Amazon Athena の仕様

AWS CUR で Amazon Athena サポートのオプションを選択した場合、AWS では必要なすべてのリソースをセットアップするために役立つ複数のファイルも作成して配信します。AWS は、AWS CloudFormation テンプレート、手動で Athena テーブルを作成するための SQL を含む SQL ファイル、AWS CUR の更新ステータスを確認するための SQL を含むファイルを配信します。これらのファイルでは次の命名規則が使用されます。

```
<example-report-prefix>/<example-report-name>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/crawler-cfn.yml  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/<example-report-name>-create-table.sql  
<example-report-prefix>/<example-report-name>/<example-report-name>/yyyyymmdd-yyyyymmdd/<cost_and_usage_data_status>
```

コストと使用状況レポート 設定の編集

コストと使用状況レポート を編集するには、Billing and Cost Management コンソールの コストと使用状況レポート ページを使用できます。

Note

レポート名は編集できません。選択する場合 上書き 用 レポートのバージョン管理レポート名を編集できません。レポートにリソース ID、時間粒度、またはレポートのバージョン管理のいずれが含まれているかは問いません。[Overwrite] に設定されたレポートを削除して、同じ名前、Amazon S3 バケット、およびパスプレフィックスで新しいレポートを作成すると、データが破損して不正確になる場合があります。

コストと使用状況レポート を編集するには

1. Billing and Cost Management コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home#/>) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで [コストと使用状況レポート] を選択します。
3. 編集するレポートを選択し、[Edit report (レポートの編集)] を選択します。
4. (バージョン管理されたレポートのみ) [Additional report details] で、[Include resource IDs] を選択して各リソースの ID を追加します。
5. 請求額の確定後に AWS で返金、クレジット、またはサポート料金をアカウントに適用したときに AWS のコストと使用状況レポート を更新する場合は、[Data refresh settings] を選択します。

レポートを更新すると、新しいレポートが Amazon S3 にアップロードされます。

6. [次] を選択します。
7. [S3 bucket] に、レポートを配信する先の Amazon S3 バケットの名前を入力します。
8. [検証] を選択します。

Note

バケットでは、適切なアクセス権限が有効になっている必要があります。バケットにアクセス許可を追加する方法の詳細については、「[バケットとオブジェクトのアクセス許可の設定](#)」(Amazon Simple Storage Service コンソールユーザーガイド) を参照してください。

9. [Report path prefix (レポートパスのプレフィックス)] に、レポート名に付加するレポートパスのプレフィックスを入力します。
10. (バージョン管理されたレポートのみ) [Time granularity] で、次のいずれかを選択します。
 - 時間単位 レポートの行項目を時間ごとに集計する場合。
 - [Daily (日次)] レポートの行項目を日別に集計する場合。
 - 毎月 レポートの行項目を月別に集計する場合。
11. (バージョン管理されたレポートのみ) [Report versioning] で、レポートの各バージョンでレポートの以前のバージョンを上書きするか、以前のバージョンに加えて配信するかを選択します。
12. 対象: のレポートデータ統合を有効にする、AWS CUR 統合する Amazon Athena、Amazon Redshift、または Amazon QuickSight. レポートは、以下の形式で圧縮されています。
 - Athena: Parquet形式
 - Amazon Redshift または Amazon QuickSight : .gz 圧縮
13. [Save] を選択します。

Amazon Athena を使用した コストと使用状況レポート のクエリ

Amazon Athena は、標準 SQL を使用して Amazon S3 で AWS のコストと使用状況レポート (AWS CUR) のデータを分析できるサーバーレスクエリサービスです。これにより、独自のデータウェアハウスソリューションを作成しなくても、AWS CUR のデータに対してクエリを実行できます。

このセクションでは、コストと使用状況レポート で Athena を使用方法について説明します。Athena サービスの詳細については、[Amazon Athena ユーザーガイド](#)を参照してください。

トピック

- [Amazon Athena 統合の設定 \(p. 11\)](#)
- [Amazon Athena の手動設定 \(p. 14\)](#)
- [Amazon Athena クエリの実行 \(p. 16\)](#)
- [他のリソースへのレポートデータのロード \(p. 17\)](#)

Amazon Athena 統合の設定

新しい Amazon S3 バケットと新しい コストと使用状況レポート の両方を作成して Athena で使用することを強くお勧めします。次のセットアッププロセスでは、バケット内の既存の Amazon S3 イベントをすべて削除します。これらは、既存の AWS CUR 用にすでに存在するイベントベースのプロセスに悪影響を及ぼす可能性があるためです。新しいレポートの設定には最大で 8 時間かかるため、最後の 2 つの設定ステップは翌日実行することをお勧めします。

AWS CUR は Athena の圧縮形式として parquet のみをサポートし、Amazon S3 バケット内に保存されている以前のレポートを自動的に上書きします。

Important

AWS CloudFormation はクロスリージョンリソースをサポートしていません。AWS CloudFormation テンプレートを使用する場合は、すべてのリソースを同じリージョンに作成する必要があります。リージョンでは、以下のサービスをサポートする必要があります。

- AWS Lambda
- Amazon Simple Storage Service
- AWS Glue
- Amazon Athena

Athena の設定手順は次のとおりです。

- [the section called “レポート用の新しい S3 バケットの作成” \(p. 11\)](#)
- [新しい コストと使用状況レポート の作成 \(p. 13\)](#)
- [AWS CloudFormation テンプレートを使用した Athena の設定 \(p. 13\)](#)

レポート用の新しい Amazon S3 バケットの作成

このプロセスでは、コストと使用状況レポート用に新しい Amazon S3 バケットを作成する方法を示します。

Note

あなたが AWS Organizations、マスターアカウント このバケットを作成できます。AWS CUR データは、マスターアカウント。

AWS CUR レポート用の新しい Amazon S3 バケットを作成するには

1. <https://console.aws.amazon.com/s3/> で Amazon S3 コンソールを開きます。
2. [バケットの作成] を選択します。
3. ダイアログボックスで、[バケット名] にバケットの名前を入力します。

バケット名は、すべて小文字を使用し、3~63 文字で構成します。スペースを含めることはできません。数字、ハイフン (-)、ピリオド (.) を使用することもできます。

4. Amazon S3 バケットを作成するリージョンを選択します。
5. [次] を選択します。
6. [次] を選択します。
7. (オプション) [Grant Amazon Simple Storage Service Log Delivery group write access to this bucket (Amazon Simple Storage Service ログ配信グループにこのバケットへの書き込みアクセス権限を付与する)] を選択すると、誰が Amazon S3 バケットにアクセスしているかを追跡するアクセスログを有効にできます。アクセスログを配信するバケットと、ログを保存するフォルダ名を選択します。
8. [次] を選択します。
9. [Create bucket (バケットを作成する)] を選択します。
10. バケットのリストから、レポートを受信するバケットを選択します。
11. [Permissions] を選択します。
12. [バケットポリシー] を選択します。
13. 次のテキストをバケットポリシーエディタに貼り付けます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:GetBucketAcl",
        "s3:GetBucketPolicy"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
      "Action": "s3:PutObject",
      "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname/*"
    }
  ]
}
```

14. 置換 *bucketname* バケットの名前が表示されます。
15. [Save] を選択します。

新しいコストと使用状況レポートの作成

このプロセスでは、Athena で使用する新しい AWS のコストと使用状況レポートを作成する方法を示します。

新しいコストと使用状況レポートを作成するには

1. Billing and Cost Management コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home#/>) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで [コストと使用状況レポート] を選択します。
3. [Create report (レポートを作成)] を選択します。
4. [レポート名] に、レポートの名前を入力します。
5. [Additional report details] で、[Include resource IDs] を選択して各リソースの ID をレポートに含めます。
6. [Data refresh settings] で、請求額の確定後に AWS で返金、クレジット、またはサポート料金をアカウントに適用した場合にコストと使用状況レポートを更新するかどうかを選択します。レポートを更新すると、新しいレポートが Amazon S3 にアップロードされます。
7. [次] を選択します。
8. [S3 バケット] で、[設定] を選択します。
9. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。
 - ドロップダウンリストから既存のバケットを選択し、[Next (次へ)] を選択します。
 - バケット名と、新しいバケットを作成するリージョンを入力し、[Next (次へ)] を選択します。
10. [I have confirmed that this policy is correct (このポリシーが正しいことを確認しました)] を選択後、[保存] を選択します。
11. [Report path prefix (レポートパスのプレフィックス)] に、レポート名に付加するレポートパスのプレフィックスを入力します。AWS CUR で Athena を使用するには、レポートパスのプレフィックスを指定する必要があります。
12. レポートの明細項目を 1 時間ごとに集計するには、[Time granularity (時間の詳細度)] で [Hourly (時間別)] を選択します。レポートの明細項目を 1 日ごとに集計するには、[Daily (日別)] を選択します。
13. [Report versioning (レポートバージョンニング)] で、レポートの各バージョンでレポートの以前のバージョンを上書きするのか、以前のバージョンに加えて配信するのかが選択されます。
14. [Enable report data integration for] で、AWS CUR を Amazon Athena、Amazon Redshift、Amazon QuickSight のいずれにアップロードするかを選択します。レポートは、以下の形式で圧縮されています。
 - Athena: parquet 圧縮
 - Amazon Redshift または Amazon QuickSight : .gz 圧縮
15. [次] を選択します。
16. レポートの設定を確認したら、[Review and Complete (確認して完了)] を選択します。

次の手順に進む前に、最初の AWS CUR が Amazon S3 バケットに配信されるまで待つ必要があります。AWS によって最初のレポートが配信されるまで最大 8 時間かかることがあります。

AWS CloudFormation テンプレートを使用した Athena の設定

Important

この手順に進む前に、最初の AWS CUR が Amazon S3 バケットに配信されるまで待つ必要があります。AWS によって最初のレポートが配信されるまで最大 8 時間かかることがあります。

Athena を使用するには、AWS Glue クローラ、AWS Glue データベース、および AWS Lambda イベントを設定する必要があります。Billing and Cost Management には、この設定を自動的に行うための AWS CloudFormation テンプレートが用意されています。テンプレートを使用するときはリージョンを一貫させてください。このプロセスでは、Athena AWS CloudFormation テンプレートの使用方法を示します。

Athena AWS CloudFormation テンプレートを使用するには

1. <https://console.aws.amazon.com/s3/> にある Amazon S3 コンソールを開きます。
2. バケットのリストからバケット名を選択します。
3. フォルダ間を移動し、.yaml テンプレートファイルを見つけます。

.yaml ファイルは、通常、プレフィックス名フォルダまたはレポート名フォルダにあります。場所は、レポートの形式によって異なります。
4. .yaml テンプレートファイルを選択します。
5. [ダウンロード] を選択します。
6. AWS CloudFormation コンソール (<https://console.aws.amazon.com/cloudformation>) を開きます。
7. AWS CloudFormation を以前に使用したことがない場合は、[Create New Stack] を選択します。それ以外の場合は、[Create Stack (スタックの作成)] を選択します。
8. [Prepare template (テンプレートの準備)] の [Template is ready (テンプレートの準備ができています)] を選択します。
9. [Template source (テンプレートのソース)] で、[Upload a template file (テンプレートファイルのアップロード)] を選択します。
10. [Choose file] を選択します。
11. ダウンロードした .yaml テンプレートを選択し、[Open] を選択します。
12. [次] を選択します。
13. [Stack name (スタック名)] としてテンプレートの名前を入力し、[次へ] を選択します。
14. [次] を選択します。
15. ページの下部で、[AWS CloudFormation によって IAM リソースが作成される場合があることを承認します] を選択します。このテンプレートによって以下のリソースが作成されます。
 - 3 つの IAM ロール
 - 1 つの AWS Glue データベース
 - 1 つの AWS Glue クローラ
 - 2 つの Lambda 関数。
 - 1 つの Amazon S3 通知
16. [作成] を選択します。

Amazon Athena の手動設定

テーブルは、自分で作成せずに、AWS CloudFormation テンプレートを使用して作成することを強くお勧めします。提供されている SQL クエリで作成されるテーブルは 1 か月分のデータのみを対象としますが、AWS CloudFormation テンプレートで作成されるテーブルは複数の月を対象とし、さらに自動的に更新できます。AWS CloudFormation テンプレートの設定方法の詳細については、「[the section called "Athena 統合の設定" \(p. 11\)](#)」を参照してください。

Athena テーブルの設定に AWS CloudFormation テンプレートを使用しない場合は、以下の手順を手動で実行してください。AWS CUR データに対して SQL クエリを実行する前に、テーブルを作成する必要があります。このステップは少なくとも 1 か月に 1 回実行する必要があります。また、テーブルには現在の AWS CUR のデータのみを含めます。

テーブル作成プロセスの一環として、AWS は AWS CUR の列名を変換します。変換プロセスの詳細については、「[the section called "列名" \(p. 17\)](#)」を参照してください。

- [Athena テーブルの作成 \(p. 15\)](#)
- [コストと使用状況レポート のステータステーブルの作成 \(p. 15\)](#)
- [レポートパーティションのアップロード \(p. 16\)](#)

Athena テーブルの作成

AWS には、このテーブルを AWS CUR バケット内に作成するために実行する必要がある SQL が含まれています。

Athena テーブルを作成するには

1. AWS マネジメントコンソールにサインインし、Amazon S3 コンソール (<https://console.aws.amazon.com/s3/>) を開きます。
2. バケットのリストから、コストと使用状況レポート の送信先として指定したバケットを選択します。
3. パス `your-report-prefix-your-report-name-path-to-report` に移動します。

正確なパスは、以前のバージョンを上書きするように AWS CUR を設定しているかどうかによって異なります。詳細については、[コストと使用状況レポート 配信タイムライン \(p. 6\)](#) を参照してください。
4. ファイル `my-report-name-create-table.sql` を開きます。
5. ファイルから SQL をコピーします。CREATE 最後は `LOCATION 's3://your-report-prefix/your-report-name/the-rest-of-the-path'`。データベース名とテーブルで Athena データベース。
6. Athena コンソール (<https://console.aws.amazon.com/athena/>) を開きます。
7. 次の SQL を [New query 1 (新規クエリ 1)] クエリペインに貼り付けます。の場合: `<#####>.<###>`、コピーした SQL の 1 行目のデータベース名とテーブル名を使用します。

```
CREATE DATABASE <database name>
```

8. [クエリの実行] を選択します。
9. ドロップダウンメニューで、作成したデータベースを選択します。
10. [New query 1 (新規クエリ 1)] クエリペインで、SQL ファイルから残りの SQL を貼り付けます。
11. [クエリの実行] を選択します。

テーブルを作成したら、クエリを実行する前にパーティションにロードする必要があります。詳細については、[the section called “列名” \(p. 17\)](#) を参照してください。

コストと使用状況レポート のステータステーブルの作成

AWS は AWS CUR を 1 日に複数回更新します。Athena では AWS がレポートを更新中であるかどうかを認識できないため、クエリの結果に古いデータと新しいデータが混在する場合があります。これを軽減するには、AWS がコストと使用状況レポート を更新中であるかどうかを追跡するテーブルを作成します。このテーブルに対してクエリを実行することで、AWS がデータを更新中であるかどうかを確認します。このテーブルは 1 回のみ作成する必要があります。その後、テーブルは AWS によって最新に保たれます。

更新テーブルを作成するには

1. Athena コンソール (<https://console.aws.amazon.com/athena/>) を開きます。
2. 次の SQL を [New query 1 (新規クエリ 1)] クエリペインに貼り付けます。

```
CREATE EXTERNAL TABLE IF NOT EXISTS cost_and_usage_data_status(  
  status STRING)  
ROW FORMAT SERDE  
  'org.apache.hadoop.hive.ql.io.parquet.serde.ParquetHiveSerDe'  
WITH SERDEPROPERTIES (  
  'serialization.format' = '1'  
)  
LOCATION 's3://{S3_Bucket_Name}/{Report_Key}/cost_and_usage_data_status/'
```

3. [クエリの実行] を選択します。

AWS によるデータ更新の実行中かどうかを確認するには、Athena コンソールを使用して、次の SQL クエリを実行します。

```
select status from cost_and_usage_data_status
```

レポートパーティションのアップロード

コストと使用状況レポートデータにクエリを実行するには、Athena テーブルにデータをアップロードする必要があります。AWS で配信する新しい AWS CUR レポートごとに、この操作を実行する必要があります。

最新のレポートパーティションをアップロードするには

1. Athena コンソール (<https://console.aws.amazon.com/athena/>) を開きます。
2. テーブルの横にある [...] を選択します。
3. [Load Partitions] を選択します。

パーティションをアップロードしないと、Athena から結果が返されないか、データが欠落していることを示すエラーメッセージが返されます。

Amazon Athena クエリの実行

データに対して Athena クエリを実行するには、まず Athena コンソールを使用して、AWS がデータを更新しているかどうか確認してから、Athena コンソールでクエリを実行します。SQL を実行するときは、正しいデータベースがドロップダウンリストから選択されていることを確認してください。次の SQL を使用してステータスを確認できます。

```
select status from cost_and_usage_data_status
```

考えられる2つの結果は、READY および UPDATING。ステータスが READY すると、Athena データベース。ステータスが UPDATING の場合、Athena は不完全な結果を返すことがあります。

AWS がデータを更新中であることを確認したら、独自のクエリを実行できます。たとえば、次のクエリでは、mycostandusage_parquet というサンプルデータベースで、サービスによる毎月の当会計年度の初めから今日までのコストを示します。

```
SELECT line_item_product_code,  
sum(line_item_blended_cost) AS cost, month  
FROM mycostandusage_parquet  
WHERE year='2018'
```

```
GROUP BY line_item_product_code, month  
HAVING sum(line_item_blended_cost) > 0  
ORDER BY line_item_product_code;
```

列名

Athena の列名の制限は、コストと使用状況レポート の列名の制限とは異なります。つまり、AWS CUR データを Athena テーブルにアップロードしたときに列名が変更されます。AWS は次の変更を行います。

- 大文字の前に下線を追加
- 大文字を小文字で置換
- アルファベット以外の文字をアンダースコアで置換
- 重複する下線を削除
- 先頭および末尾のアンダースコアをすべて削除
- 列名が列名で許容される長さを超える場合、左から右の順で下線を削除

Note

これらのルールを適用すると、一部のリソースタグ列の名前が重複します。AWS は、同じ名前の列が複数ある場合に列をマージします。

たとえば、列名 `ExampleColumnName : Example Column Name Continued` は `example_column_name_example_column_name_continued` になります。

他のリソースへのレポートデータのロード

コストと使用状況レポート を Amazon Redshift と Amazon QuickSight にアップロードして、AWS のコストと使用状況を分析できます。

トピック

- [Amazon QuickSight へのレポートデータのロード \(p. 17\)](#)
- [Amazon Redshift へのレポートデータのロード \(p. 17\)](#)

Amazon QuickSight へのレポートデータのロード

コストと使用状況レポート に Amazon QuickSight にアップロードできます。

へのアップロードについての詳細は、[Amazon QuickSight、を参照 を使用したデータセットの作成 Amazon S3 ファイル](#) の Amazon QuickSight ユーザーガイド。

Amazon Redshift へのレポートデータのロード

このセクションでは、AWS CUR を Amazon Redshift にアップロードして AWS のコストと使用状況を分析する方法について説明します。

Important

Amazon Redshift の列では、大文字と小文字を区別しません。また、ユーザー定義タグよりも厳格な文字制限があります。Amazon Redshift とユーザー定義タグの競合を防ぐため、AWS は、使用しているタグを `userTag0`、`userTag1`、`userTag2` などのタグに置き換えます。Amazon

Redshift テーブルを作成して、これにレポートをアップロードすると、AWS 定義タグをユーザー定義タグにマッピングする Amazon Redshift テーブルを作成できます。タグテーブルを使って、元のタグを検索することができます。

たとえば、OWNER や Owner というタグがある場合、「owner」という名前の 2 つの列を使用してテーブルを作成することを Amazon Redshift は許可しません。代わりに、列を含むレポートテーブルを作成します。userTag0 および userTag1 代わりに OWNER および Owner 列でテーブルを作成します。remappedUserTag および userTag。は remappedUserTag 列には AWS 定義タグが格納されます。userTag0 および userTag1、および userTag 列には元のタグが格納され、OWNER および Owner

AWS では、Amazon Redshift テーブルを作成したり、レポートをアップロードしたり、タグテーブルを作成したり、すべてのタグ行をタグテーブルに挿入するためのコマンドが用意されています。これらのコマンドは、マニフェストファイルとともに S3 に保存される RedshiftCommands.sql ファイルにあります。また、Billing and Cost Management コンソールの Redshift ファイルとヘルパーファイルにもあります。AWS では、RedshiftCommand ファイルのコマンドがアップロードするレポートを制御する、RedshiftManifest ファイルも用意されています。RedshiftManifest ファイルを削除すると、RedshiftCommands ファイルのコピーコマンドで問題が生じます。

Billing and Cost Management コンソールで **RedshiftCommands.sql** ファイルを見つけるには

1. Billing and Cost Management コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home#/>) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[コストと使用状況レポート] を選択します。
3. Amazon Redshift にアップロードするレポートを選択します。
4. [You have enabled viewing reports in the following service(s): (以下のサービスでのレポート表示が有効:)] の横の [Amazon Redshift] を選択します。
5. ダイアログボックスからコマンドをコピーし、SQL クライアントに貼り付けます。

次の手順では、データベースや Amazon Redshift に詳しいことを前提としています。

コストと使用状況レポート を Amazon Redshift にアップロードするには

1. Amazon Redshift クラスターを作成する

詳細については、Amazon Redshift Cluster Management Guide の「[クラスターの作成](#)」を参照してください。

2. AWS マネジメントコンソールにサインインし、Amazon S3 コンソール (<https://console.aws.amazon.com/s3/>) を開きます。
3. AWS CUR を保存する先の Amazon S3 に移動します。
4. RedshiftCommands.sql ファイルを開きます。

このファイル内のカスタマイズされたコマンドを使用して、Amazon Redshift テーブルを作成したり、AWS CUR を Amazon S3 からアップロードしたり、Amazon Redshift にユーザー定義タグをインポートするためのタグテーブルを作成したりできます。

5. の copy コマンド、置換 `<AWS_ROLE>` ARN の IAM アクセス権を持つ役割を Amazon S3 バケットを AWS CUR.
6. 置換 `<S3_BUCKET_REGION>` 地域の Amazon S3 バケットはインです。たとえば、us-east-1 と指定します。
7. SQL クライアントを使用してクラスターに接続します。

詳細については、以下を参照してください。 [Amazon Redshift クラスターとデータベースへのアクセス](#) の Amazon Redshift Cluster Management Guide.

8. SQL コマンドを RedshiftCommands.sql ファイルから SQL クライアントに、次の順序でコピーします:

- CREATE TABLE - このコマンドは、レポートに一致するようにカスタマイズされたスキーマを使って、Amazon Redshift テーブルを作成します。
 - COPY - このコマンドは、指定された IAM ロールを使用して AWS CUR ファイルを S3 から Amazon Redshift にアップロードします。
 - CREATE TAG TABLE - このコマンドは、AWS 定義タグをユーザー定義タグにマッピングできるようにする、テーブルを作成します。
 - INSERT - このコマンドは、ユーザー定義タグをタグテーブルに挿入します。
9. AWS CUR から Amazon Redshift にすべてのデータをコピーすると、SQL を使用してデータにクエリを実行できます。でのデータのクエリについての詳細は、Amazon Redshift、を参照 [Amazon Redshift SQL\(Amazon Redshift SQL\)](#) の Amazon Redshift Database Developer Guide.

Note

コストと使用状況レポート の列数は、新しいコスト配分タグの作成やサービスに対する新しい製品属性の追加などに伴って、毎月変わる場合があります。毎月 AWS CUR のデータを新しいテーブル内にコピーし、さらに必要な列を別個の月別のテーブルにコピーすることをお勧めします。

データディクショナリ

コストと使用状況レポートには、使用状況法に関する詳細が表示されます。以下のセクションでは、レポートに表示される列のサブセットおよび対応する定義を一覧して説明します。

AWS CUR に表示される列と、これらの列が適用されるサービスの完全なリストをダウンロードするには、[Column_Attribute_Service.zip](#) を選択します。この csv リストには、ID、請求、明細項目、予約、料金、および製品の各列が表示されます。

トピック

- [ID の詳細 \(p. 20\)](#)
- [請求の詳細 \(p. 20\)](#)
- [明細項目の詳細 \(p. 21\)](#)
- [予約の詳細 \(p. 26\)](#)
- [料金詳細 \(p. 32\)](#)
- [製品詳細 \(p. 33\)](#)
- [リソースタグの詳細 \(p. 46\)](#)
- [Savings Plans の詳細 \(p. 46\)](#)
- [Cost Category の詳細 \(p. 49\)](#)

ID の詳細

[identity] ヘッダーの列は、すべてのコストと使用状況レポートに表示される静的フィールドです。

AWS CUR の ID の明細項目を使用して AWS CUR の複数のファイル間に分割された特定の明細項目を確認できます。これには以下の列が含まれます。

identity/LineItemId

- 説明: 特定のバージョンの AWS CUR のすべての明細項目を識別する ID。明細項目 ID は、異なる AWS CUR 間で一貫性がないため、異なるレポート間の同じ明細項目を識別するために使用することはできません。
- 例: 。 A AWS CUR 11月29日に作成されたファイルは、複数のファイルが必要になるほど大きくなる可能性があります。LineItemId は 11 月 29 日の AWS CUR ファイル間では一貫していますが、11 月 30 日の AWS CUR の同じリソースの LineItemId とは一致しません。

identity/TimeInterval

- 説明: この明細項目が適用される時間の間隔、以下の形式: 。YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ/YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ。時間間隔は UTC で、レポートの粒度に応じて 1 日単位または 1 時間単位で指定できます。
- 例: 。 は 時間間隔 2017-11-01T00:00:00Z/2017-12-01T00:00:00Z 2017年11月の全月を含む。

請求の詳細

[bill] ヘッダーの列は、すべてのコストと使用状況レポートに表示される静的フィールドです。AWS CUR の請求明細項目を使用して、請求タイプや請求期間の開始/終了など、レポートの対象となる特定の請求に関する詳細を確認できます。これには以下の列が含まれます。

A|B|C|D|E|F|G|H|I|J|K|L|M|N|O|P|Q|R|S|T|U|VWXYZ

B

bill/BillingEntity

あなたのアカウントの AWS 販売者。取り得る値には以下のものがあります。

- AWS – Amazon Web Services AWS のサービスを販売するエンティティ。
- AISPL – Amazon Internet Services Pvt. Ltd. インドで AWS のサービスのリセラーとなっている現地インド法人。
- [AWS Marketplace] – サードパーティーのソフトウェアプロバイダーによって AWS プラットフォームに構築されたソリューションの販売をサポートするエンティティ。

bill/BillingPeriodEndDate

このレポートの対象となる請求期間の終了日 (UTC)。形式は次のとおりです。YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ

bill/BillingPeriodStartDate

このレポートの対象となる請求期間の開始日 (UTC)。形式は次のとおりです。YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ

bill/BillType

このレポートの対象となる請求書の種類。請求書の種類は 3 つあります。

- [Anniversary] – 月中に使用したサービスの明細項目。
- [Purchase (購入)] – 前払いサービス料金の明細項目。
- [Refund (返金)] – 返金の明細項目。

I

bill/InvoiceId

特定の明細項目に関連付けられた ID。レポートが確定するまでは、[請求書 ID] が空白になります。

P

bill/PayerAccountId

支払いアカウントのアカウント ID。の組織向け AWS Organizationsこれは、マスターアカウント。

明細項目の詳細

[lineItem] ヘッダーの列は、すべてのコストと使用状況レポートに表示される静的フィールドです。これには、あなたの使用に伴うすべてのコストと使用状況の情報が含まれます。これには以下の列が含まれません。

A|B|C|D|E|F|G|H|I|J|K|L|M|N|O|P|Q|R|S|T|U|VWXYZ

A

lineItem/AvailabilityZone

この明細項目をホストするアベイラビリティゾーン。例えば、us-east-1a または us-east-1b。

B

lineItem/BlendedCost

BlendedRate に UsageAmount を乗じた値。

Note

[BlendedCost] は、[LineItemType] が [Discount] である明細項目については空白になります。割引は、メンバーアカウントとSKU別に集計された、メンバーアカウントの非混合コストのみを使用して計算されます。そのため、[BlendedCost] は割引に使用できません。

lineItem/BlendedRate

BlendedRate は、組織全体で各 SKU に発生した平均コストです。

たとえば、Amazon S3 ブレンドレートは、ストレージの合計コストを、1 か月間に保存されたデータ量で割ったものです。RI を持つアカウントの場合、ブレンドレートは RI とオンデマンドインスタンスの平均コストとして計算されます。

混合レートは、マスターアカウントコストを各メンバーアカウントに割り当てるために使用します。詳細については、以下を参照してください。 [混合レートとコスト](#) の AWS Billing and Cost Management ユーザーガイド。

C

lineItem/CurrencyCode

この明細項目の通貨。

L

lineItem/LegalEntity

AWS のサービスのプロバイダ。取り得る値には以下のものがあります。

- Amazon Web Services – AWS のサービスを販売するエンティティ。
- Amazon Internet Services Pvt. Ltd – インドで AWS のサービスのリセラーとなっている現地インド法人。

lineItem/LineItemDescription

明細項目タイプの説明。たとえば、使用料の明細項目は、特定の期間に発生した使用タイプを要約したものです。

サイズ柔軟な RI の場合、説明は、利点が適用された RI に対応します。たとえば、明細項目が t2.micro に対応し、t2.small RI がその使用に適用された場合、lineitem/description には t2.small と表示されます。

RI 割引が適用された使用料の明細項目の説明には、明細項目の対象となる料金プランが含まれています。

lineitem/LineltemType

この明細項目の対象となる請求の種類。以下の種類が対象となります。

- [Credit (クレジット)] – AWS が請求に適用したすべてのクレジット。詳細については、[Description] 列を参照してください。AWS が請求額の確定後に当月のクレジットをアカウントに適用した場合、AWS は確定後のレポートを更新することがあります。
- [DiscountedUsage (割引使用)] – リザーブドインスタンス (RI) の利点があるすべてのインスタンスの割合。
- [Fee] – サブスクリプションに支払った前払い年間料金。たとえば、[All Upfront RI (全前払い RI)] または [Partial Upfront RI (一部前払い RI)] として支払った前払い金が該当します。
- [Refund (返金)] – AWS から負の課金として払い戻された金額。詳細については、[説明] 列を参照してください。AWS が請求額の確定後に当月のアカウントに返金を適用する場合、AWS は、確定後のレポートを更新することがあります。
- [RIFee] – サブスクリプションの定期的な月額料金。たとえば、毎月支払う [一部前払い RI]、[前払いなし RI]、および [全額前払い] の定期的な料金を指します。RIFee は、[全額前払い] 予約が 0 USD になる場合がありますが、この行は、これらの予約タイプに対しても事前入力されます。予約/AmortizedUpfrontForBillingPeriod や予約/ReservationARN などの他の列を提供するためです。
- [Tax] – AWS が請求書に適用した税金。VAT、米国の消費税などが該当します。
- [使用状況] – オンデマンドインスタンスレートで課金される使用料金。
- [SavingsPlanUpfrontFee] – Savings Plans に支払った前払い金。たとえば、[全前払い Savings Plan] や [一部前払い Savings Plan] に支払った前払い金が該当します。
- [SavingsPlanRecurringFee] – Savings Plans 関連のサブスクリプションに対する毎月の定額料金。たとえば、[一部前払い Savings Plan] や [前払いなし Savings Plan] の毎月の定額料金が該当します。
- [SavingsPlanCoveredUsage] – Savings Plan サブスクリプションからの利点を享受したインスタンス。
- [SavingsPlanNegation] – 適用された Savings Plans 割引。明細項目には負のコスト (割引) が含まれます。これにより、[非ブレンドコスト] の合計を使用して、Savings Plans 割引後の正味コストを確認できます。

N

lineltem/NormalizationFactor

インスタンスに共有テナンシーがある限り、AWS は、インスタンスファミリーおよび AWS リージョンのすべてのインスタンスサイズに対して、Linux/Unix Amazon EC2 および Amazon RDS RI 割引を適用できます。これは、組織内のメンバーアカウントの RI 割引にも適用されます。Amazon EC2 および Amazon RDS のすべての新規および既存のサイズ柔軟な RI のサイズは、インスタンスサイズに基づいた正規化係数により決定されます。AWS が各インスタンスサイズに適用する正規化係数を次の表に示します。

Amazon EC2 サイズ柔軟な RI の正規化係数

インスタンスサイズ	正規化係数
nano	0.25
micro	0.5
small	1
medium	2

インスタンスサイズ	正規化係数
large	4
xlarge	8
2xlarge	16
4xlarge	32
8xlarge	64
10xlarge	-80
16xlarge	128
32xlarge	256

lineItem/NormalizedUsageAmount

サイズ柔軟な RI のために発生した使用量。正規化単位。[NormalizedUsageAmount] は、[UsageAmount] に [NormalizationFactor] を乗算したものに等しくなります。

O

lineItem/Operation

この明細項目の対象となる特定の AWS オペレーション。これは、明細項目の特定の使用状況を表します。たとえば、RunInstances の値は Amazon EC2 インスタンスのオペレーションを示します。

P

lineItem/ProductCode

測定された製品のコード。たとえば、Amazon EC2 は、Amazon Elastic Compute Cloud の製品コードです。

R

lineItem/ResourceId

(オプション) レポートに個々のリソース ID を含めることを選択した場合、この列にはプロビジョンしたリソースの ID が表示されます。たとえば、Amazon S3 ストレージバケット、Amazon EC2 コンピューティングインスタンス、または Amazon RDS データベースは、すべてリソース ID を持つことができます。このフィールドは、インスタンス化されたホストに関連付けられていない使用タイプ (データ転送、API リクエストなど) と明細項目タイプ (割引、クレジット、税金など) では空白です。AWS の一般的なサービスに対応するリソース識別子を次の表に一覧表示します。

AWS リソース識別子

AWS サービス	リソース識別子
Amazon CloudFront	ディストリビューション ID

AWS サービス	リソース識別子
Amazon CloudSearch	検索ドメイン
Amazon DynamoDB	DynamoDB テーブル
Amazon Elastic Compute Cloud - Amazon EBS	Amazon EBS ボリューム
Amazon Elastic Compute Cloud	インスタンス ID
Amazon Elastic Compute Cloud - CloudWatch	インスタンス ID の CloudWatch 料金
Amazon EMR	MapReduce クラスタ
Amazon ElastiCache	キャッシュクラスタ
Amazon Elasticsearch Service	検索ドメイン
Amazon S3 Glacier	ポールト
Amazon Relational Database Service	データベース。
Amazon Redshift	Amazon Redshift cluster
Amazon Simple Storage Service	Amazon S3 バケット:
Amazon Virtual Private Cloud	VPN ID
AWS Lambda	Lambda 関数名

T

lineItem/TaxType

AWS がこの明細項目に適用した税金の種類。

U

lineItem/UnblendedCost

は UnblendedCost は UnblendedRate 乗算 UsageAmount.

lineItem/UnblendedRate

特定の使用のための結合されていない割合。明細項目に RI 割引が適用されている場合、UnblendedRate は 0 です。RI 割引が適用されている明細項目は、UsageType が Discounted Usage です。

lineItem/UsageAccountId

この明細項目を使用したアカウントの ID。組織の場合、これは マスターアカウント またはメンバーアカウント。このフィールドを使用して、アカウント別のコストや使用状況を追跡することができます。

lineItem/UsageAmount

指定した期間に発生した使用量。サイズ柔軟なリザーブドインスタンスについては、reservation/TotalReservedUnits 列を使用します。

Note

特定のサブスクリプション料金では、UsageAmount が 0 になります。

lineItem/UsageEndDate

対応する明細項目の終了日時は UTC で表されます (その時刻は含まない)。形式は次のとおりです。YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ

lineItem/UsageStartDate

明細項目の開始日時は UTC で表されます (その時刻を含む)。形式は次のとおりです。YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ

lineItem/UsageType

この明細項目の使用状況の詳細。たとえば、USW2-BoxUsage:m2.2xlarge は、米国西部 (オレゴン) リージョンの M2 ハイメモリダブルエクストララージインスタンスについて説明します。

予約の詳細

予約列には、予約されたリソースの詳細が表示されます。

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | VWXYZ

A

reservation/AmortizedUpfrontCostForUsage

- 説明: すべての先行RIおよび部分先行RIの初期前払いは、使用時間に対して償却される。「No Upfront RIs」には前払いがいないため、「No Upfront RI」の値は 0。現時点では、専用ホスト予約にこの値は提供されません。将来のアップデートで変更を行う予定です。
- 適用可能な行項目: DiscountedUsage
- サンプル値: 、 、 、 、 、 0.05、0.17、0.15
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/AmortizedUpfrontFeeForBillingPeriod

- 説明: この予約の前払い料金のうち、請求期間の料金がいくらかを説明します。全前払い RI および一部前払い RI の最初の前払い料金は、今月償却されます。No Upfront RIには前払い料金がいないため、No Upfront RIの価値は 0。現時点では、専用ホスト予約にこの値は提供されません。将来のアップデートで変更を行う予定です。

- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 29.15、 200.67、 214.43
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/AvailabilityZone

- 説明: この行項目に関連付けられているリソースの可用性ゾーン。
- 適用可能な行項目: 手数料、返金、RI手数料
- サンプル値: 、 、 、 、 、 us-east-1、 us-east-1b、 eu-west-1b、 ap-southeast-2a
- サービス:
 - Amazon EC2

E

reservation/EffectiveCost

- 説明: RIの前払いレートと時間給の両方の合計は、有効な時間給に平均化されます。EffectiveCostは、amortizedUpfrontCostForUsage それを recurringFeeForUsage。詳細については、以下を参照してください。 [Amazon EC2 予約済みインスタンスの価格](#)。
- 適用可能な行項目: DiscountedUsage
- サンプル値: 、 、 、 、 、 0.23、 0.68、 0.10
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/EndTime

- 説明: 関連するRIリリース期間の終了日。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 2019-05-15T04:23:14.000Z、 2020-02-08T17:32:15.000Z、 2019-07-14T00:00:33.000Z
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache

- Amazon RDS

M

reservation/ModificationStatus

- 説明: RIリリースが変更されたか、変更されていないかを示す。
 - 元 購入したRIは変更されなかった。
 - システム 購入されたRIは、コンソールまたはAPIを使用して修正された。
 - 手動 購入したRIは、AWS サポート 支援。
 - 手動データあり: 購入したRIは、AWS サポート 支援、および AWS RIの推定計算値
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Original、 System、 Manual、 ManualWithData
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

N

reservation/NormalizedUnitsPerReservation

- 説明: 予約サブスクリプションの各インスタンスの正規化された単位の数。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 1316、 54.5、 319
- サービス:
 - Amazon RDS

reservation/NumberOfReservations

- 説明: このサブスクリプションに含まれる予約の数。たとえば、1件のサブスクリプションには4件のRI予約を関連付けることができます。
- 適用可能な行項目: 手数料、RI手数料、返金、クレジット
- サンプル値: 、 、 、 、 、 5、 50、 500
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

R

reservation/RecurringFeeForUsage

- 説明: 部分的な先行RIおよび非先行RIについて、使用時間に対して償却される繰り返し手数料。全前払い RI には 0 より大きい定期料金支払いがないため、全前払い RI の値は 0 です。
- 適用可能な行項目: DiscountedUsage
- サンプル値: 、 、 、 、 、 0.139、 0.729、 0.018
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/ReservationARN

- 説明: この明細項目が活用した RI の Amazon リソースネーム (ARN)。これは「RI リース ID」とも呼ばれます。これは、この特定の AWS リザーブドインスタンスの一意の識別子です。この値の文字列には、AWS サービス名と、RI を購入したリージョンも含まれています。
- 適用可能な行項目: 料金、RI料金、割引使用、返金、クレジット
- サンプル値: 、 、 、 、 、 arn:aws:ec2:us-east-1:074108124787:reserved-instances/1d3fbc13-f181-4c40-9dd6-12b345678de9、 arn:aws:ec2:us-east-1:499958231354:reserved-instances/be41234c3-b5c0-403e-a80c-1cfd12345678
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

S

reservation/StartTime

- 説明: 関連する予約済みインスタンスの期間の開始日。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 2018-07-29T02:56:10.000Z、 2017-08-21T15:58:47.000Z、 2019-02-01T22:01:34.000Z
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/subscriptionid

- 説明: 行項目を関連するオファーにマッピングする一意の識別子。RI ARN を AWS リザーブドインスタンスの ID として使用することをお勧めしますが、両方を使用できます。
- 適用可能な行項目: 料金、RI料金、割引使用、払い戻し、クレジットおよび使用
- サンプル値: 、 、 、 、 、 123456789、 111122222、 333344444
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

T

reservation/TotalReservedNormalizedUnits

- 説明: 予約サブスクリプションのすべてのインスタンスに対する予約正規化単位の合計数。AWS は、`reservation/NormalizedUnitsPerReservation` 付き `reservation/NumberOfReservations`。
- 適用可能な行項目: DiscountedUsage
- サンプル値: 、 、 、 、 、 40320、 3647.99、 17928.77
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS

reservation/TotalReservedUnits

- 説明: `TotalReservedUnits` は、異なる値を持つ `Fee` および `RIFee` の明細品目の両方に自動入力されません。
- 料金明細: 契約期間全体にわたり、サブスクリプションで購入したリースの合計数に対する、予約されたユニットの合計数。

これは、`NumberOfReservations` 付き `UnitsPerReservation`。例えば、5 RI x 744時間/月 x 12か月 = 44.640。
- RI手数料明細 (毎月の経常費用): サブスクリプションで利用可能なユニットの合計数(Amazon EC2 特定のRIサブスクリプションで時間。

例: 5 RI x 744 時間 = 3,720。
- 適用可能な行項目: 手数料、RI手数料、返金、クレジット
- サンプル値: 、 、 、 、 、 26208、 98.19、 15796
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache

- Amazon RDS

U

reservation/UnitsPerReservation

- 説明: UnitsPerReservation は、異なる値を持つFeeおよびRIFeeの明細品目の両方に自動入力されます。
- 料金明細: サブスクリプションの期間について購入されたRI時間の合計など、サブスクリプション用に予約されたユニットの合計数。

例: 744 時間/月 x 12 か月 = 8,928 合計時間/ユニット。

- RI手数料明細 (毎月の経常費用): サブスクリプションで利用可能なユニットの合計数(Amazon EC2 特定のRIサブスクリプションで時間)。

例: 1 ユニット x 744 時間 = 744。

- 適用可能な行項目: 手数料、RI手数料、返金、クレジット
- サンプル値: 、 、 、 、 、 334.0、 486.72、 18455
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/UnusedAmortizedUpfrontFeeForBillingPeriod

- 説明: オールアップフロントRIおよびパーシャルアップフロントRIの当初アップフロント料金の償却前払料-請求期間-列の償却部分。No Upfront RIsには前払いがないため、No Upfront RIsの価値は 0。現時点では、専用ホスト予約にこの値は提供されません。将来のアップデートで変更を行う予定です。

- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 6.05、 1.97、 0.17
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/UnusedNormalizedUnitQuantity

- 説明: この請求期間中に使用しなかったサイズ可変地域RIの未使用正規化単位数。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 25.00、 3.50、 274.33
- サービス:
 - Amazon RDS

reservation/UnusedQuantity

- 説明: この請求期間中に使用しなかったRI時間数。
- 適用可能な行項目: RI手数料明細
- サンプル値: 、 、 、 、 、 209.65110408、 191.00000000、 176.00000000
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/UnusedRecurringFee

- 説明: 部分的な前払および前払なしRIのための未使用の予約時間に関連する繰り返し発生する料金。全前払い RI には 0 より大きい定期料金がないため、全前払い RI の値は 0 です。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 0.02971114、 0.19190000、 1.37280000
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

reservation/UpfrontValue

- 説明: 前払い価格 AWS 予約済みインスタンス。前払いのない RI の場合、この値は 0 になります。
- 適用可能な行項目: RIFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 150.00、 1000.00、 2000.00
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon Redshift
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon RDS

料金詳細

明細項目別の料金。料金列は AWS Price List Service API に基づいています。AWS Price List Service API には、無料利用枠の料金、スポットインスタンス、AWS Marketplace 内の製品、前払いの年間サブスクリプション料金 (Fee)、および定額月額料金 (RIFee) は含まれません。予約列には次のようなものがあります。

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | VWXYZ

L

pricing/LeaseContractLength

RI の予約期間。

P

pricing/publicOnDemandCost

パブリックオンデマンドインスタンスレートに基づく明細項目の合計コスト。複数のオンデマンドパブリックコストが発生する SKU がある場合は、最も高い階層の同等のコストが表示されます。無料利用枠や階層型価格を提供するサービスなどが該当します。

pricing/publicOnDemandRate

特定の使用料の明細項目に対する、この請求期間のパブリックオンデマンドインスタンスレート。複数のオンデマンドパブリック料金が発生する SKU がある場合、最も高い階層の同等の料金が表示されます。無料利用枠や階層型価格を提供するサービスなどが該当します。

pricing/PurchaseOption

この明細項目に選択した支払い方法。有効な値は All Upfront、Partial Upfront、および No Upfront。

R

pricing/RateId

明細項目のレートの ID。

T

pricing/term

AWS の使用がリザーブドまたはオンデマンドであるかどうか。

U

pricing/unit

AWS が使用料を計算するために使用した料金単位。たとえば、Amazon EC2 インスタンスの使用料の料金単位は時間数です。

製品詳細

製品列には、費用が発生した製品に関するメタデータと明細項目が表示されます。製品列は動的であり、コストと使用状況レポート の表示は、請求期間中の製品の使用状況によって異なります。料金列は AWS Price List Service API に基づいています。AWS Price List Service API には、無料利用枠の料金、スポットインスタンス、AWS Marketplace 内の商品、前払いの年間サブスクリプション料金 (Fee)、および定額月額料金 (RIFee) は含まれません。

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z

A

product/availability

- 説明: さまざまな AWS ストレージ オプション。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 99.99%、 99.5%
- サービス:
 - Amazon S3 Glacier
 - Amazon S3
 - AWS Elemental MediaStore
 - AWS RoboMaker

C

product/capacitystatus

- 説明: 定員予約のステータスについて説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 UnusedCapacityReservation、 AllocatedCapacityReservation、 Used
- サービス:
 - Amazon EC2

product/clockspeed

- 説明: の運転速度を説明 AWS インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 2.4 GHz、 2.6 GHz
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon MQ
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS
 - AWS Database Migration Service

D

product/dedicatedEbsThroughput

- 説明: インスタンス間の専用スループット(例: Amazon EC2 インスタンスと Amazon EBS)、使用インスタンスタイプに応じて、毎秒500~10.000メガビット(Mbps)のオプションがあります。専用スループットにより、Amazon EBS I/O と、EC2 インスタンスからのその他のトラフィックの競合が最小限に抑えられるため、Amazon EBS ポリユームに最適なパフォーマンスが得られます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 200 Mbps、 Upto 5000 Mbps
- サービス:

- Amazon EC2
- Amazon Neptune
- Amazon RDS

product/durability

- 説明: 特定の年におけるオブジェクトの耐久性を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 99.999999999%、 N/A、 99.99%
- サービス:
 - Amazon S3 Glacier
 - Amazon S3
 - AWS Elemental MediaStore

E

product/ebsOptimized

- 説明: あなたの Amazon EC2 インスタンスは Amazon EBS-最適化されています。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、 No
- サービス:
 - Amazon EC2

product/ecu

- 説明: の整数処理能力の相対測定値を提供する EC2 Compute Unit (ECU) について説明します。 Amazon EC2 インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 9、 100、 variable
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ES
 - Amazon GameLift
 - Amazon Redshift

product/enhancedNetworkingSupported

- 説明: インスタンスが拡張ネットワークをサポートしているかどうかを表します。拡張ネットワークでは、シングルルート I/O 仮想化 (SR-IOV) を使用して、サポートされるインスタンスタイプにおける高性能ネットワーク機能が提供されます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、 No
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS
 - AWS Database Migration Service

F

product/fromLocation

- 説明: 使用元の場所を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 External、 US East (N. Virginia)、 Global
- サービス:
 - Amazon CloudFront
 - AWS DataTransfer

product/fromLocationType

- 説明: 使用元の場所の種類を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 AWS Region、 AWS Edge Location
- サービス:
 - AWS Direct Connect
 - AWS Elemental MediaConnect
 - Amazon CloudFront
 - Amazon Lightsail
 - AWS Shield

G

product/gpu

- 説明: GPU の数を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 16、 32
- サービス:
 - Amazon SageMaker
 - Amazon EC2

product/gpuMemory

- 説明: GPU メモリの詳細について説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 16、 32
- サービス:
 - Amazon SageMaker
 - Amazon EC2

product/instanceFamily

- 説明: あなたの Amazon EC2 インスタンスファミリー。Amazon EC2 は、10種類の異なるインスタンスタイプで多数のオプションを提供します。各インスタンスには1つ以上のサイズ オプションがあり、異なるタイプのアプリケーション向けに最適化された個別のインスタンス ファミリーに整理されています。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 General Purpose、Memory Optimized、Accelerated Computing
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS
 - Amazon ES
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon EMR

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/InstanceType

- 説明: インスタンスのタイプ、サイズ、およびファミリーについて説明します。これらは、インスタンスの CPU、ネットワーク、およびストレージ容量を定義します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 t2.small、m4.xlarge、t2.micro、m4.large、t2.large
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS
 - Amazon ES
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon EMR

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/instanceTypeFamily

- 説明: 指定された使用状況に関連付けられているインスタンスファミリー。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 t2、m4、m3
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon RDS

product/intelAvxAvailable

- 説明: プロセスに Intel Advanced Vector Extension 命令セットがあるかどうかについて説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、No。
- サービス:
 - Amazon EC2

product/intelAvx2Available

- 説明: プロセスに Intel Advanced Vector Extension 命令セット 2 があるかどうかについて説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、 No
- サービス:
 - Amazon EC2

product/intelTurboAvailable

- 説明: コアがインテル・ターボ・テクノロジーを使用して周波数を上げることができるかどうかを説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、 No
- サービス:
 - Amazon EC2

L

product/licenseModel

- 説明: インスタンスのライセンス・モデルについて説明します。
- サンプル値: license-included、 bring-your-own-license、 general-public-license
- サービス:
 - Amazon AppStream
 - Amazon EC2
 - Amazon MQ
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS

product/location

- 説明: あなたの担当地域を Amazon S3 バケットが入っています。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Asia Pacific (Mumbai)、 Asia Pacific (Seoul)、 Canada (Central)、 EU (London)、 US West (Oregon)
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/locationType

- 説明: タスクの終点を説明します。

- サンプル値: 、 、 、 、 、 AWS Region、 AWS Edge Location、 Other
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

M

product/maxIopsBurstPerformance

- 説明: 最大IOPSバースト・パフォーマンスの説明 Amazon EBS ボリューム。
- サンプル値: 3000 IOPS for volumes <= 1TB
- サービス:
 - Amazon EC2

product/maxIopsVolume

- 説明: の 1 秒あたりの最大入出力を示します。Amazon EBS ボリューム。
- サンプル値: 16,000 (maxIops for a General Purpose SSD (gp2))
- サービス:
 - Amazon EC2

product/maxThroughputVolume

- 説明: の最大のネットワークスループット ボリュームを示します。Amazon EBS ボリューム。
- サンプル値: 、 、 、 、 500 MiB/s、 250 MiB/s、 1000 MiB/s、 40 - 90 MB/sec
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon SageMaker

N

product/networkPerformance

- 説明: のネットワークのスループットについて説明します。Amazon EC2 インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 moderate、 high、 up to 10 GB
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS
 - Amazon ElastiCache

- Amazon SageMaker
- AWS Database Migration Service

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/normalizationSizeFactor

- 説明: インスタンスサイズの正規化係数について説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 nano - 0.25、 micro - 0.5、 medium - 2、 xlarge - 8、 16xlarge - 128
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon MQ
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS

O

product/OfferingClass

- 説明: 予約済みインスタンスのタイプについて説明します。リザーブドインスタンスを購入するとき、スタンダードあるいはコンバーティブルの提供クラスから選択できます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Standard、 Convertible
- サービス:
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon EC2
 - Amazon ElastiCache
 - Amazon ES
 - Amazon RDS
 - Amazon Redshift

product/operatingSystem

- 説明: のオペレーティング・システムについて説明します。Amazon EC2 インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Amazon Linux、 Ubuntu、 Windows Server、 Oracle Linux、 FreeBSD
- サービス:
 - Amazon AppStream
 - Amazon EC2
 - Amazon GameLift
 - Amazon Lightsail
 - Amazon WorkSpaces
 - AWS CodeBuild

product/operation

- 説明: 具体的な AWS 行項目がカバーする操作。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 RunInstances (Amazon EC2 インスタンス)
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB
 - Amazon CloudWatch
 - Amazon Redshift

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

P

product/physicalCores

- 説明: インスタンスが提供する物理コアの数を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 4、 8
- サービス:
 - Amazon EC2

product/physicalProcessor

- 説明: のプロセッサについて説明します。 Amazon EC2 インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 High Frequency Intel Xeon E7-8880 v3 (Haswell)、 Intel Xeon E5-2670、 AMD EPYC 7571
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS
 - AWS Database Migration Service

product/processorArchitecture

- 説明: プロセッサのアーキテクチャについて説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 32-bit、 64-bit
- サービス:
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS
 - AWS Database Migration Service

product/processorFeatures

- 説明: インスタンスのプロセッサ機能について説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Intel AVX、 Intel AVX2、 Intel AVX512、 Intel Turbo
- サービス:
 - AWS Database Migration Service
 - Amazon DocumentDB
 - Amazon EC2
 - Amazon Neptune
 - Amazon RDS

product/ProductFamily

- 説明: 製品タイプのカテゴリ。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Alarm、 AWS Budgets、 Stopped Instance、 Storage Snapshot、 Compute
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/ProductName

- 説明: AWS サービスのフルネーム。この列を使用して、AWS のサービス別に AWS の使用状況をフィルタ処理します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 AWS Backup、 AWS Config、 Amazon Registrar、 Amazon Elastic File System、 Amazon Elastic Compute Cloud
- サービス:
 -

product/provisioned

- 説明: が Amazon EBS 使用はプロビジョニングされた Amazon EBS ストレージ。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Yes、 No
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon MQ

R

product/region

- 説明: AWS サービスをホストする地域。このフィールドを使用して、特定のリージョンにわたって使用量を分析できます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 eu-west-3、 us-west-1、 us-east-1、 ap-northeast-2、 sa-east-1
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

S

product/sku

- 説明: 製品の一意のコード。SKUは、ProductCode、UsageType、および Operation。サイズに柔軟性のあるRIの場合、SKUは使用されたインスタンスを使用します。たとえば、t2.micro インスタンスを使用し、AWS によって t2.small RI 割引が使用量に適用された場合、明細項目 SKU は t2.micro を使用して作成されます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 FFNT87MQSCR328W6、 VBYCEU494XUAHCA7
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/storage

- 説明: インスタンスに接続されているディスク ストレージについて説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 60GB、 True、 EBS Only、 1 x 900 NVMe SSD、 1 x 150 NVMe SSD
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS
 - Amazon Redshift
 - Amazon ES
 - Amazon WorkSpaces

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/storageclass

- 説明: のストレージ・クラスについて説明します。Amazon S3 バケット。
- サンプル値: 、 、 、 、 Archive、General Purpose、Infrequent Access、Intelligent-Tiering、Non-Critical Data
- サービス:
 - AWS Elemental MediaStore
 - AWS Storage Gateway
 - Amazon Cloud Directory
 - Amazon EFS
 - Amazon MQ
 - Amazon S3

T

product/tenancy

- 説明: で許可されるテナンシーのタイプ Amazon EC2 インスタンス。
- サンプル値: 、 、 、 、 Dedicated、Reserved、Shared、NA、Host
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon ECS

product/toLocation

- 説明: 場所の使用先について説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 External、US East (N. Virginia)
- サービス:
 - Amazon CloudFront
 - AWS DataTransfer

product/toLocationType

- 説明: サービス使用の宛先の場所を示します。
- サンプル値: 、 、 、 、 AWS Region、AWS Edge Location
- サービス:
 - AWS Direct Connect
 - AWS Elemental MediaConnect
 - AWS Shield
 - Amazon CloudFront
 - Amazon Lightsail

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

U

product/usagetype

- 説明: 明細の使用詳細を説明します。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 EU-BoxUsage:c5d.9xlarge、EU-BoxUsage:m4.16xlarge、SAE1-InstanceUsage:db.t2.medium、USW2-AW-SW-19、SAE1-BoxUsage:c4.large,
- サービス:
 - Amazon EC2
 - AWS Certificate Manager
 - Amazon S3
 - Amazon RDS
 - Amazon DynamoDB

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

V

product/vcpu

- 説明: 単一のCPUコアで同時に実行されるスレッドの数を示します。Amazon EC2 インスタンスはマルチスレッドをサポートし、これにより複数のスレッドを単一のCPUコアで同時に実行できます。各スレッドは、インスタンスの仮想 CPU (vCPU) として表されます。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 8、16、36、72、128
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon RDS
 - Amazon Redshift
 - Amazon ES
 - Amazon ElastiCache

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

product/volumeType

- 説明: あなたの Amazon EBS ボリュームタイプ。
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Standard、General Purpose、General Purpose-Aurora、Amazon Glacier、Amazon SimpleDB - Standard,
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Amazon S3
 - Amazon RDS

- Amazon DynamoDB
- Amazon S3 Glacier

詳細。完全なサービスリストについては、[Column_Attribute_Service.zip](#) をダウンロードしてください。

リソースタグの詳細

リソース列を使用して、明細項目の対象となる特定のリソースに関する情報を検索できます。これらの列には、ユーザー定義のコスト配分タグが含まれます。次に例を示します。

resourceTags/user:creator

user:Creator タグを使用して、リソースを作成したユーザーを追跡します。

resourceTags/user:name

user:Name タグを使用して、特定のユーザーに関連付けられているリソースを追跡します。

resourceTags/user:owner

user:Owner タグを使用して、リソースを所有しているユーザーを追跡します。

resourceTags/user:purpose

user:Purpose タグを使用して、リソースが作成された理由を追跡します。

Savings Plans の詳細

SavingsPlan 列には、ComputeSavingsPlans に関する詳細が表示されます。SavingsPlan 列は、Savings Plans を購入した場合に表示されます。詳細については、以下を参照してください。Savings Plans、を参照 [貯蓄プランとは?](#) の Savings Plans ユーザーガイド。

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | VWXYZ

A

savingsPlan/AmortizedUpfrontCommitmentForBillingPeriod

- 説明: 前払い料金の額 a Savings Plan 請求期間について、月額プランの料金が請求されます。[全前払い Savings Plan] および [一部前払い Savings Plan] の最初の前払い金は、当月に償却されます。[前払いなし Savings Plan] の場合、値は 0 です。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

E

savingsPlan/EndTime

- 説明: の期限日 Savings Plan 同意します。
- 適用可能な行項目:
SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

I

savingsPlan/InstanceTypeFamily

- 説明: 指定された使用状況に関連付けられているインスタンスファミリー。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage
- サンプル値: 、 、 、 、 、 m4、 g2
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

O

savingsPlan/OfferingType

- 説明: のタイプを説明 Savings Plan 購入済み。
- 適用可能な行項目:
SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 ComputeSavingsPlan、 EC2InstanceSavingsPlan
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

P

savingsPlan/PaymentOption

- 説明: 支払いオプション Savings Plan.
- 適用可能な行項目:
SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 Partial Upfront、 All Upfront、 No Upfront
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

savingsPlan/PurchaseTerm

- 説明: の持続時間または期間を示します。 Savings Plan.
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 1yr、 3yr
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

R

savingsPlan/RecurringCommitmentForBillingPeriod

- 説明: の月額料金 Savings Plan 月額プラン。たとえば、[一部前払い Savings Plan] や [前払いなし Savings Plan] の毎月の定額料金が該当します。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

savingsPlan/Region

- 説明: AWS地域(地理的エリア)は、AWS サービス。このフィールドを使用して、特定の AWS リージョン全体の支出を分析できます。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サンプル値: 、 、 、 、 、 eu-west-3、 us-west-1、 us-east-1、 ap-northeast-2、 sa-east-1
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

S

savingsPlan/SavingsPlanArn

- 説明: ユニークな Savings Plan 識別子。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanUpfrontFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

savingsPlan/SavingsPlanEffectiveCost

- 説明: 割合 Savings Plan 各使用ラインに割り当てられる月次コミットメント額(前払および反復)。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage

- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

savingsPlan/SavingsPlanRate

- 説明: は Savings Plan 使用速度。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

savingsPlan/StartTime

- 説明: の開始日 Savings Plan 同意します。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanCoveredUsage、SavingsPlanNegation、SavingsPlanUpfrontFee、SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

T

savingsPlan/TotalCommitmentToDate

- 説明: その時間について、現在までの先行投資コミットメントと反復投資コミットメントの合計を償却しました。
- 適用可能な行項目: SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2
 - Fargate

U

savingsPlan/UsedCommitment

- 説明: の総額(ドル) Savings Plan 使用しました。(SavingsPlanRate と使用量を乗じた額)
- 適用可能な行項目: SavingsPlanRecurringFee
- サービス:
 - Amazon EC2

Cost Category の詳細

Cost Category 列を使用して、Cost Category 機能によって分類された特定の明細項目に関する情報を検索できます。Cost Category 列は、Cost Category と分類ルールの作成時に自動的に入力されます。これらの

列には、列ヘッダーとしてユーザー定義 Cost Category 名と、対応する Cost Category 値が含まれます。次に例を示します。

costCategory/Project

Project Cost Category を使用して、プロジェクトに関連付けられたコストと使用量の情報を分類します。「alpha」や「beta」などのプロジェクト名は、[costCategory/Project] の下に値として表示されます。

costCategory/Team

Team Cost Category を使用して、チームに関連付けられたコストと使用量の情報を分類します。「Marketing」などのチーム名は、[costCategory/Team] の下に値として表示されます。

costCategory/Environment

Environment Cost Category を使用して、環境に関連付けられたコストと使用量の情報を分類します。「Development」などの環境名は、[costCategory/Environment] の下に値として表示されます。

ユースケース

AWS のコストと使用状況レポート (AWS CUR) を使用して、レポート管理のニーズを満たすことができます。このセクションでは、Savings Plans やリザーブドインスタンス (RI) の使用率、料金、割り当ての追跡などのユースケースについて詳しく説明します。

トピック

- [Savings Plans を理解する \(p. 51\)](#)
- [予約を理解する \(p. 53\)](#)

Savings Plans を理解する

コストと使用状況レポート (AWS CUR) を使用して Savings Plans の使用率、料金、および割り当てを追跡できます。

Savings Plans の明細項目

Savings Plans は、1 年間または 3 年間にわたって一貫した使用量 (USD/時間で測定) を契約する見返りとして、Amazon EC2 および AWS Fargate を低価格で利用できる柔軟な料金モデルです。

AWS CUR の以下の明細項目を参考にして、Savings Plans の支出を追跡および管理できます。

前払い料金

[SavingsPlanUpfrontFee] 明細項目は、All Upfront または Partial Upfront Savings Plan を購入すると、請求書に追加されます。次の表は、この 1 回払いの料金が AWS CUR にどのように表示されるかを示しています (一部の列を省いて見やすくしています)。

表 1

lineltem/ LineltemType	lineltem/ ProductCode	lineltem/ UsageStartDate	lineltem/ LineltemDescrip	lineltem/ UnblendedCost	savingsPlan/ SavingsPlanARN
SavingsPlanUpfrontFee	ComputeSavingsPlan	2019-10-10T00:00:00Z	3年間の全 前払いコン ピューティ ング Savings Plan ID: 70352035 に 対する 1 回 限りの料金 43.80 USD	43.8	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc1d08fd- d97c-44e2- bcfa- f8bb5312e48a
SavingsPlanUpfrontFee	ComputeSavingsPlan	2019-10-10T00:00:00Z	12年間の一部 前払いリー ジョン M5 イ ンスタンス タイプ EC2 Savings Plan ID: 12355516 に対する 1 回 限りの料金 43.80 USD	43.8	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc7d-46c0-8a55-9c083bca1b

Savings Plans の毎月の定額料金

[SavingsPlanRecurringFee] 明細項目は、No Upfront または Partial Upfront Savings Plans に対応する毎時間の定額料金を示します。[SavingsPlanRecurringFee] は、購入日および以降の各請求期間の初日に追加されます。

[SavingsPlanRecurringFee] は、時間 (毎時間のコストと使用量に適用) または日 (毎日のコストと使用量に適用) に割り当てられ、購入した時刻に請求書に追加されます。以降は、請求期間の時間/日ごとに追加されます。

次の表は、毎時間の定額料金がレポートにどのように表示されるかを示しています (一部の列を省いて見やすくしています)。

表 2

lineltem/ Lineltem1	lineltem/ UsageSta	lineltem/ ProductC	lineltem/ UsageTy	lineltem/ Unblende	lineltem/ Lineltem1	savingsP SavingsP	savingsP Payment	savingsP OfferingT	savingsP PurchaseTerm
SavingsPlan	20R0c20	050p000	002	ComputeSP	01yrPartial	1Year	arn:aws:savingsplans:us-east-2:555555555555:savingsplan/bc1d08fd-d97c-44e2-bcfa-f8bb5312e48a	部前	ComputeSavingsPlans
SavingsPlan	20R0c20	050p000	002	E2-EC2SP:t3.1yr	0.01	1 year	arn:aws:savingsplans:us-east-2:555555555555:savingsplan/bc1d08fd-d97c-44e2-bcfa-f8bb5312e48a	部前	EC2InstanceSavingsPlans
SavingsPlan	20R0c20	050p000	002	ComputeSP	01yrPartial	1Year	arn:aws:savingsplans:us-east-2:555555555555:savingsplan/bc1d08fd-d97c-44e2-bcfa-f8bb5312e48a	部前	ComputeSavingsPlans

Savings Plans 割引特典

[SavingsPlanCoveredUsage] 明細項目は、Savings Plans 特典が適用されたインスタンス使用量を示します。[SavingsPlanCoveredUsage] 明細項目は、Savings Plan 特典が適用されなかった場合のオンデマンド料金の非ブレンドコストを示します。この非ブレンドコストは、対応する [SavingsPlanNegation] 明細項目で相殺されます。

各 [SavingsPlanCoveredUsage] 明細項目では、[savingsPlan/SavingsPlanRate] フィールドと [savingsPlan/SavingsPlanEffectiveCost] フィールドを使用して、Savings Plans の時間単位のコミットメントでどのように使用量に課金されたかを確認できます。

[SavingsPlanCoveredUsage] 明細項目ごとに対応する [SavingsPlanNegation] が表示されます。[SavingsPlanNegation] 明細項目は、[SavingsPlanCoveredUsage] の非ブレンドコストを相殺し、SavingsPlanARN、オペレーション、使用タイプ、およびアベイラビリティゾーン別に時

間レベルでグループ化されます。したがって、1つの [SavingsPlanNegation] 明細項目は複数の [SavingsPlanCoveredUsage] 明細項目に対応する場合があります。

次の表は、カバーされる Usage (使用量) 明細項目と Negation (否定) 明細項目がレポートにどのように表示されるかを示しています (一部の列を省いて見やすくしています)。

表 3

lineltem/ Lineltem	lineltem/ UsageS	lineltem/ UsageE	lineltem/ Product	lineltem/ UsageTy	lineltem/ UsageA	lineltem/ Unblend	lineltem/ Lineltem	Savings/ SavingP	savings/ SavingsI	savings/ SavingsP	Plan/ PlanEffective
SavingsPlanCoveredUsage	2019-10-01	2019-10-01	t3.nano	0.0052			\$0.0052 per On Demand Linux t3.nano Instance Hour	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc1d08fd- d97c-44e2- bcfa- f8bb5312e48a	0.0026		
SavingsPlanCoveredUsage	2019-10-01	2019-10-01	t3.nano	0.0052			\$0.0052 per On Demand Linux t3.nano Instance Hour	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc1d08fd- d97c-44e2- bcfa- f8bb5312e48a	0.0026		
SavingsPlanCoveredUsage	2019-10-01	2019-10-01	t3.nano	0.0026			\$0.0052 per On Demand Linux t3.nano Instance Hour	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc1d08fd- d97c-44e2- bcfa- f8bb5312e48a	0.0013		
SavingsPlanNegationUsed	2019-10-01	2019-10-01	t3.nano	-0.013			SavingsPlanNegationUsed by AccountID 555555555555 and UsageSku : K7ERD2Q28HHU97DT	arn:aws:savingsplans: 555555555555:savingsplan/ bc1d08fd- d97c-44e2- 555555555555 f8bb5312e48a			

使用量が Savings Plans コミットメントでカバーできる範囲を超えた場合、カバーされない使用量は依然として [Usage (使用量)] 明細項目として表示され、カバーされた使用量は [SavingsPlanCoveredUsage] として、対応する [SavingsPlanNegation] 明細項目と共に表示されます。

予約を理解する

AWS のコストと使用状況レポート (AWS CUR) を使用して、リザーブドインスタンス (RI) の使用率、料金、割り当てを追跡できます。このセクションでは、予約について詳しく説明します。

トピック

- 予約の明細項目を理解する (p. 54)
- 償却された予約データを理解する (p. 56)
- サイズの柔軟な予約のモニタリング (p. 57)
- オンデマンドキャパシティー予約のモニタリング (p. 59)

予約の明細項目を理解する

RI では、オンデマンドインスタンスの料金と比べて大幅な割引を受けられます。RI は物理インスタンスではありません。アカウントでのオンデマンドインスタンスの使用に適用される請求割引です。これらのオンデマンドインスタンスは、請求の割引のメリットを得るために特定の属性に一致する必要があります。

トピック

- 前払い料金 (p. 54)
- 定額月額 RI 料金 (p. 54)
- RI 割引特典 (p. 55)

前払い料金

[Fee] 明細項目は、RI の All Upfront または Partial Upfront を購入した場合に請求書に追加されます。

次の表は、この 1 回払いの料金が AWS CUR にどのように表示されるかを示しています (一部の列を省いて見やすくしています)。

lineitem/ LineItemType	lineitem/ ProductCode	lineitem/ UsageStartDate	lineitem/ description	lineitem/ UnblendedCost	Reservation/ ReservationARN
料金	AmazonEC2	2016-01-01T00:00:00Z	Setup charge for subscription: 363836886, planId: 1026576	68	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reservation/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea

定額月額 RI 料金

[RI Fee] 明細項目には、その月に適用された、関連付けられた RI の定額月額料金が表示されます。[RI Fee (RI 料金)] は、まず購入日の請求書に追加され、そしてそれ以降の各請求期間の最初の日に追加されます。

[RI Fee] は、割引された時間料金を月ごとの時間数で乗算して計算されます。

次の表は、定期的な月額料金がどのようにレポートに表示されるかを示しています。

lineitem/ LineItem	lineitem/ ProductCode	lineitem/ UsageStart	lineitem/ UsageType	lineitem/ description	lineitem/ normalized factor	lineitem/ Unblended	Reservation/ Availability	Reservation/ ReservationARN	Reservation/ TotalRes units	Reservation/ TotalReserved NormalizedUnits
RI 料金	AmazonEC2	2016-01-01T00:00:00Z	m4.large	0.0309 hourly	4	23		arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reservation/	2976	2976 reserved-

lineitem/ LineItem	lineitem/ Product	lineitem/ UsageSt	lineitem/ UsageTy	lineitem/ descripti	lineitem/ normaliz factor	lineitem/ Unblend	Reservat Availabili	Reservat Reservat	Reservat TotalRes	Reservation/ TotalReserved NormalizedUnits
				fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), m4.large instance				f8c204c1- dd48-43f1- adb8- f88aa61e0dea		

Note

定期的な月額料金は、アベイラビリティゾーンまたはリージョンを範囲とする RI では記録方法が異なります。アベイラビリティゾーンを範囲とする RI の場合、対応するアベイラビリティゾーンは [reservation/AvailabilityZone] 列に表示されます。リージョン範囲がある RI の場合、[reservation/AvailabilityZone (予約/アベイラビリティゾーン)] の列は空になります。リージョン範囲がある RI には、インスタンスサイズを示す [lineitem/NormalizationFactor (明細項目/正規化係数)] と [reservation/TotalReservedNormalizedUnits (予約/予約済みの正規化ユニット総数)] の値があります。

RI 割引特典

[Discounted Usage (割引使用料)] 明細項目には、対応する RI 割引特典を適用したインスタンスの使用料が表示され、使用する RI のいずれかに対応する使用料が発生した場合に請求書に追加されます。AWS は、インスタンスの予約に対応するインスタンスの使用など、対応する使用料に基づく RI の割引特典を計算します。対応する使用料がある場合、使用料の明細項目に関連するコストは常に 0 となります。これは、RI に関連する料金がすでにそのほかの 2 つの明細項目で課金されているためです (前払い料金と定期的な月額料金)。

次の表は、RI の割引特典が適用された使用料の例を示しています。

lineitem/ LineItem	lineitem/ Product	lineitem/ UsageS	lineitem/ UsageT	lineitem/ descript	lineitem/ Resourc	lineitem/ Availabi	lineitem/ normaliz factor	lineitem/ Normali	lineitem/ Unblenc	lineitem/ Unblenc	Reservation/ ReservationARN
割引使用料	Amazon	EC2	BoxUsage	m4.large UNIX (Amazon VPC), m4.large reserved instance applied	bd250bs- east-1b	us- east-1b	4	4	0	0	arn:aws:ec2:us- east-1:572481847470: instances/ f8c204c1- dd48-43f1- adb8- f88aa61e0dea

Note

Amazon EC2 の [DiscountedUsage] 列にある [UsageAmount] の値が実際の使用時間数です。[NormalizedUsageAmount] の値は、[UsageAmount] の値を [NormalizationFactor] の値で乗算した値です。[NormalizationFactor] の値は、インスタンスのサイズによって決まります。RI の特典である割引が対応する使用料の明細項目に適用された場合、[reservation/ReservationARN] 列に表示される最初の前払い料金と定期的な月額料金の Amazon リソースネーム (ARN) の値は、割引使用料の明細項目の ARN の値と一致します。正規化係数にインスタンスサイズをマッピングすることについての詳細は、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「[予約のインスタンスサイズの変更](#)」を参照してください。

償却された予約データを理解する

償却とは、1 回限りの予約をそのコストの影響を受ける請求期間で分散することです。償却により、キャッシュベースの会計とは異なり、加算ベースの会計としてコストを表示できます。たとえば、1 年間の全前払いの RI で 365 USD を支払い、この RI を使用した合致するインスタンスがある場合、このインスタンスは償却されて 1 日に 1 USD のコストとなります。

Billing and Cost Management で償却コストの計算に使用するデータは、以下の コストと使用状況レポート列に表示されます。

トピック

- [リザーブドインスタンスのインベントリ \(p. 56\)](#)
- [請求期間の償却データ \(p. 56\)](#)
- [リザーブドインスタンスの実質的なコスト \(p. 56\)](#)

リザーブドインスタンスのインベントリ

次の列を使用して、RI のインベントリを追跡できます。これらの列の値は RI サブスクリプション行項目 (RI Fee 行項目) のみを表示し、RI を使用した実際のインスタンス分は表示しません。

列の説明とサンプル値の詳細については、「[the section called “予約の詳細” \(p. 26\)](#)」を参照してください。

- reservation/UpfrontValue
- reservation/startTime
- reservation/endTime
- reservation/modificationStatus

請求期間の償却データ

次の列を使用すると、請求期間の RI の償却コストを理解できます。これらの列の値は RI サブスクリプション行項目 (RI Fee 行項目) のみを表示し、RI を使用した実際のインスタンス分は表示しません。

列の説明とサンプル値の詳細については、「[the section called “予約の詳細” \(p. 26\)](#)」を参照してください。

- reservation/amortizedUpfrontFeeForBillingPeriod
- reservation/unusedQuantity
- reservation/unusedNormalizedUnitQuantity
- reservation/unusedRecurringFee
- reservation/unusedAmortizedUpfrontFeeForBillingPeriod

リザーブドインスタンスの実質的なコスト

次の列を使用すると、インスタンスレベルで実質的なコストを理解できます。この列の値は、インスタンス使用状況行項目 (Discounted Usage boxUsage 行項目) のみを表示します。

列の説明とサンプル値の詳細については、「[the section called “予約の詳細” \(p. 26\)](#)」を参照してください。

- reservation/amortizedUpfrontCostForUsage
- reservation/recurringFeeForUsage
- reservation/effectiveCost

サイズの柔軟な予約のモニタリング

リージョンに適用される Amazon EC2 RI には、アベイラビリティゾーンの柔軟性とインスタンスサイズの柔軟性があります。アベイラビリティゾーンの柔軟性がある RI では、リージョン内のすべてのアベイラビリティゾーンで使用料の割引が適用されます。インスタンスサイズの柔軟性がある RI では、そのグループ内のインスタンスサイズに関係なく、使用料の割引が適用されます。お客様の RI が提供するインスタンスサイズの柔軟性がどのように使用料に適用されるかについての理解を深めるためには、[lineitem/NormalizationFactor] と [lineitem/NormalizedUsageAmount] 列を参照してください。

Note

インスタンスサイズの柔軟性は、リージョンに割り当てられたデフォルトテナンシーが設定されている Linux または Unix RI でのみサポートされます。

例 1

特定のリージョンで m4.xlarge RI を 1 つ購入します。この m4.xlarge RI は、同じリージョン内のすべての m4 インスタンスの使用に自動的に適用できます。次の表で、AWS は m4.xlarge を 2 つの m4.large インスタンスに個別に適用しています。

lineitem LineItem	lineitem Product	lineitem Usage	lineitem Usage	lineitem description	lineitem Resource	lineitem Usage	lineitem normal factor	lineitem Normal	lineitem Unbler	lineitem Unbler	Reservation/ Reser	Reser TotalR	Reservation/ TotalR	Reser Normalized
RIFee	Amazon	EC2-01	HeavyUsage	m4.xlarge 0.0618 hourly fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), m4.xlarge instance	250bc	4	4	0	0	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	5952	reserved-		
割引 使用 料	Amazon	EC2-01	BoxUsage	m4.large UNIX (Amazon VPC), m4.large reserved instance applied	250bc	4	4	0	0	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	5952	reserved-		
割引 使用 料	Amazon	EC2-01	BoxUsage	m4.large UNIX (Amazon VPC), m4.large reserved	340bd	4	4	0	0	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	5952	reserved-		

コストと使用状況レポート ユーザーガイド
サイズの柔軟な予約のモニタリング

lineitem LineItem	linelater Product	linelater Usage	linelater Usage	linelater description	linelater Resource	linelater Usage	linelater normal factor	lineitem Normal	lineitem Unbler	linelater Unbler	Reserv Reserv	Reserv TotalR	Reservation/ TotalR	ReservedNorm
				instance applied										

この2つの m4.large 明細項目には別々の [ResourceID] があり、どちらも単一の m4.xlarge RI から割引特典を受けます。これは、使用量の [reservationARN] 値と定期的な月額料の明細項目を一致して表示されます。

例 2

次の表は、2つの m4.large RI のサブスクリプションがあり、各サブスクリプションに1つの RI があるアカウントを示しています。この例では、アカウントは単一の m4.xlarge のインスタンスを1時間使用し、2つの m4.large RI でそれぞれ別々の割引特典を受けます。

lineitem LineItem	linelater Product	linelater Usage	linelater Usage	linelater description	linelater Resource	linelater Usage	linelater normal factor	lineitem Normal	lineitem Unbler	linelater Unbler	Reserv Reserv	Reserv TotalR	Reservation/ TotalR	ReservedNorm
RIFee	Amazon	EC2	HeavyUsage	0.0309 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), m4.large instance	m4.large	4	4	0	0	23	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	2976	0.00773	reserved-
RIFee	Amazon	EC2	HeavyUsage	0.0309 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), m4.large instance	m4.large	4	4	0	0	23	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	2976	0.00773	reserved-
割引 使用 料	Amazon	EC2	BoxUsage	UNIX (Amazon VPC), m4.large reserved instance applied	m4.large	250	8	4	0	0	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/f8c204c1-dd48-43f1-adb8-f88aa61e0dea	2976	0.00773	reserved-
割引 使用 料	Amazon	EC2	BoxUsage	UNIX (Amazon	m4.large	250	8	4	0	0	arn:aws:ec2:us-east-1:572481847476:reserved-instances/	2976	0.00773	reserved-

lineitem LineItem	lineltem Product	lineltem Usage	lineltem Usage	lineltem descrip	lineltem Resou	lineltem Usage	lineltem normal factor	lineitem Norma	lineitem Unbler	lineltem Unbler	Reserv Reserv	Reserv TotalR	Reservation/ TotalRes	ReservedNorm
				VPC), m4.xlarge reserved instance applied							f8c204c1- dd48-43f1- adb8- f88aa61e0dea			

異なる RI サブスクリプションが各時間のそれぞれの割合に適用されるため、m4.xlarge 使用料の 1 時間は 0.5 時間ずつの 2 行に分かれます (どちらの使用料行も、同じ [ResourceID] を持ちます)。各 0.5 時間ごとの [reservationARN] は、対応する RI サブスクリプションと一致します。

RI の購入オプションについての詳細は、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「[請求メトリックおよびお支払い方法](#)」を参照してください。

オンデマンドキャパシティー予約のモニタリング

キャパシティー予約を使用すると、特定の Availability Zone で任意の期間にわたって Amazon EC2 インスタンスのキャパシティーを予約できます。これにより、リージョンのリザーブドインスタンス (RI) で提供される請求割引とは別に、キャパシティー予約を作成および管理できます。請求割引の利点を享受するために、リージョンの RI をキャパシティー予約と組み合わせて使用できます。

キャパシティー予約の明細項目

AWS CUR データディクショナリに定義されているいくつかの列を使用して、キャパシティー予約を追跡できます。以下の列は、キャパシティー予約にも使用されます。

このセクションでは、これらの明細項目を定義し、さらにキャパシティー予約に固有の補足的な定義を示します。

コストと使用状況レポート 列の説明の詳細については、「[the section called “明細項目の詳細” \(p. 21\)](#)」を参照してください。

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | VWXYZ

B

lineitem/BlendedRate

[UsageType] が [Reservation] または [DedicatedRes] のキャパシティー予約の場合、[BlendedRate] は 0 です。これは、キャパシティー予約のコストが、キャパシティー予約自体ではなく、キャパシティーを提供するインスタンスに関連付けられているためです。

R

lineitem/Resourceid

コストと使用状況レポート の作成時に lineItem/ResourceId を含めると、[Resourceid] 列を使用してキャパシティー予約を識別して追跡できます。キャパシティー予約の Resourceid は、UnusedBox、UnusedDed、Reservation、および DedicatedRes の UsageTypes でのみキャプチャされます。

キャパシティー予約のリソース ID には常に cr- が含まれます。リソース ID の形式は次のとおりです。

```
arn:aws:ec2:<region>:<account id>:<capacity-reservation>/cr-0be443example1db6f
```


U

lineltem/UnblendedCost

BlendedRate に UsageAmount を乗じた値。

lineltem/UnblendedRate

[UsageType] が [Reservation] または [DedicatedRes] のキャパシティー予約の場合、[UnblendedRate] は 0 です。これは、キャパシティー予約のコストが、キャパシティー予約自体ではなく、キャパシティーを提供するインスタンスに関連付けられているためです。

lineltem/UsageAmount

使用したキャパシティー予約の量。キャパシティー予約ごとに 1 時間に複数のスロットを使用でき、1 時間にわたり、予約を使用する複数のインスタンスを実行できます。したがって、1 時間に複数のインスタンス時間を使用できます。[UsageAmount] は、明細項目で対象となるインスタンススロットの数を明細項目で対象となる時間数で掛けて計算されます。

lineltem/UsageType

使用した特定の予約の量。Amazon EC2 の場合、オプションは以下のとおりです。

lineltem/BoxUsage

この UsageType の場合、UsageAmount 列は、使用したインスタンスのインスタンス時間の量です。

たとえば、レポートの対象時間が 1 時間で、そのキャパシティー予約の明細項目が 10 個のインスタンスをカバーできるとします。レポートの対象時間中に 2 個のインスタンススロットを使用した場合、[BoxUsage] の [UsageAmount] は、予約して使用したインスタンス時間数を示します。この場合、2 (使用したインスタンススロットの数) に 1 時間 (レポートの対象時間) を乗算して、合計 2 となります。1 日を対象とするレポートの場合、[UsageAmount] は、2 に 24 を乗算して合計 48 となります。

DedicatedRes

[UsageType] が [DedicatedRes] の場合、[UsageAmount] 列は予約した専用キャパシティー予約のインスタンス時間数を示します。

Reservation

[UsageType] が [Reservation] の場合、[UsageAmount] 列は予約したキャパシティー予約のインスタンス時間数を示します。

たとえば、レポートの対象時間が 1 時間で、そのキャパシティー予約の明細項目が 10 個のインスタンスをカバーできる場合、[Reservation] の [UsageAmount] は、予約したインスタンススロットの数を示します。この場合、10 (使用可能なインスタンススロットの数) に 1 時間 (レポートの対象時間) を乗算して、合計 10 となります。1 日を対象とするレポートの場合、[UsageAmount] は、10 に 24 を乗算して合計 240 となります。

UnusedBox

[UsageType] が [UnusedBox] である場合、[UsageAmount] 列は予約したが使用しなかったキャパシティー予約のインスタンス時間数を示します。

たとえば、レポートの対象時間が 1 時間で、そのキャパシティー予約の明細項目が 10 個のインスタンスをカバーできるとします。レポートの対象時間中に 8 個のインスタンススロットを使用しなかった場合、[UnusedBox] の [UsageAmount] は、予約したが使用しなかったインスタンス時間数を示します。この場合、8 (使用していないインスタンススロットの数) に 1 時間 (レポートの対象時間) を乗算して、合計 8 となります。1 日を対象とするレポートの場合、[UsageAmount] は、8 に 24 を乗算して合計 192 となります。

UnusedDed

[UsageType] が [UnusedDed] の場合、[UsageAmount] 列は予約したが使用しなかった専用キャパシティー予約のインスタンス時間数を示します。

レガシーレポート

このセクションでは、AWS のコストと使用状況レポート の外部で提供されるレガシー請求レポートについて説明します。これらのページは参考になりますが、これらのレポート方法は後日利用できなくなるため、AWS のコストと使用状況レポート を使用することを強くお勧めします。

トピック

- [請求明細レポート \(p. 62\)](#)
- [毎月のレポート \(p. 73\)](#)
- [毎月のコスト配分 \(p. 73\)](#)
- [AWS の使用状況レポート \(p. 74\)](#)

請求明細レポート

Important

請求明細レポート機能は、2019 年 7 月 8 日現在、新規のお客様にはご利用いただけません。

請求明細レポート (DBR) には、請求に関して AWS CUR と同様の情報が含まれますが、個々の明細項目の計算方法は異なります。DBR と AWS CUR の両方にサインアップしている場合、明細項目は一致しません。ただし、レポートが月末に確定されると、合計コストは一致します。

AWS は、次の命名規則を使用し、DBR を csv ファイルとして Amazon S3 に保存します。

```
AWS account number-aws-billing-detailed-line-items-yyyy-mm.csv.zip
```

AWS は、DBR を 1 日に複数回再作成し、レポートを上書きします。AWS によってレポートが上書きされるとき、明細項目が以前のレポートと異なる順番になる場合があります。最終レポートは月末に作成されます。翌月になると、AWS は、前月の最終レポートを上書きするのではなく、別のレポートファイルを作成します。過去の月のレポートは、レポートを削除するまで S3 バケットに保存されます。

DBR を AWS CUR に移行する方法については、「[the section called “DBR から AWS CUR への移行” \(p. 62\)](#)」を参照してください。

請求明細レポートから コストと使用状況レポート への移行

請求明細レポート (DBR) および AWS のコストと使用状況レポート (CUR) はどちらも、料金に関する情報を提供します。レガシー DBR を使用している場合は、レポートを コストと使用状況レポート に移行することを強くお勧めします。

トピック

- [コストと使用状況レポート \(AWS CUR\) の利点の比較 \(p. 63\)](#)
- [請求明細レポートと コストと使用状況レポート の主な違い \(p. 64\)](#)
- [アドバンス料金タイプのレポート \(p. 66\)](#)

コストと使用状況レポート (AWS CUR) の利点の比較

AWS CUR は、最も包括的な情報源を提供します。個々のコストを細かく把握し、詳しく分析できるため、特にエンタープライズ規模に役立ちます。AWS CUR は、専用のクエリや分析ベースのシステムなど、複雑なコスト管理のニーズを持つユーザーに最適です。AWS CUR は、特に償却費を確認する場合、リザーブドインスタンス (RI) の情報源としても最適です。

包括予約情報

リザーブドインスタンス (RI) または予約は、1 年間または 3 年間のサービス利用契約と引き換えに、オンデマンド利用と比較して割引となる時間料金を提供します。これは大幅な節約につながる場合があります。AWS CUR は、予約の Amazon Resource Numbers (ARN)、予約数、合計 RI などの包括情報を提供するため、予約ポートフォリオのモニタリングや管理に役立ちます。特定のリソースに対する予約関連の割引を追跡できるため、節約の様子をよりよく理解できます。

DBR はこのメタデータのサブセットを提供しますが、この作業には必要な列を変換する必要があります。

AWS CUR は、償却予約コストに関する情報など、DBR にはない列を追加で提供します。詳細については、[the section called “償却された予約データを理解する” \(p. 56\)](#) を参照してください。

オンデマンド料金の利用可能性

AWS CUR は、使用状況の明細項目ごとにオンデマンド料金に関する情報を提供します。この情報を使用すると、オンデマンド料金から支払い済み額を引くことで節約額を数値化し、オンデマンド料金との差異を計算できます。また、パブリックオンデマンド料金を使用してコストを割り当てるという柔軟な選択もできます。

DBR は、オンデマンド料金の情報を示さず、請求額のみを示します。そのため、全体の節約額の計算や、オンデマンド料金を使用したコストの割り当ては困難です。

割引額の詳細な内訳

AWS CUR では、使用料ベースの割引の詳細を確認できます。割引が適用されている場合は、AWS CUR を使用して以下を確認できます。

- 割引前のコスト
- 割引額
- 明細項目レベルで割引を適用した後の合計コスト

DBR には、割引の詳細な内訳は含まれていません。

大規模な自動データ取り込み

AWS CUR を使用すると、自動データ取り込みプロセスをトリガーするためのイベントを簡単に設定して、社内システムの請求データを更新するプロセスを合理化できます。AWS CUR のデータは、以前の月に関連する料金が検出されると、自動的に更新されます。

さらに、AWS CUR は複数のファイルとして生成されるため、データを小分けできるという追加の利点があります。これにより、複数の従業員が使用するプロセスによって、データの取り込みが簡単になります。また、データのダウンロードを小分けにして再試行できます。

AWS CUR は、データをすばやく検索して抽出できるようにフォーマットされます。このレポートは、レポートに含まれる各列のリストを含むデータの全体構造に関する情報が含まれるマニフェストファイルからモデル化されています。これにより、レポートを拡張し、使用状況に関する新しい情報が利用可能になったときに含めることができます。

製品間統合

AWS CUR は Amazon Redshift、Amazon QuickSight、および Amazon Athena との統合をサポートしているため、AWS ベースのコスト管理ソリューションを迅速に構築できます。また、AWS CUR はデータを Parquet 形式で提供するため、独自のコストと使用状況レポートシステムを構築する際の選択肢が広がります。詳細については、以下を参照してください。[AWS コストおよび使用状況レポート マニフェスト ファイル](#) の AWS Billing and Cost Management ユーザーガイド。

請求明細レポートとコストと使用状況レポートの主な違い

DBR と AWS CUR にはいくつかの違いがあります。AWS CUR を使用するように移行した後で、これらの点に注意する必要があります。そのため、データをシステムに取り込む方法を調整する必要がある場合があります。

ファイル構造

DBR は単一ファイルとして配信されますが、AWS CUR は統合されたファイルのセットとして配信されます。AWS CUR では、Amazon S3 バケットの以下のファイルを表示できます。

- 使用料のすべての明細項目を含むデータファイルのセット
- すべての割引を含む個別のデータファイル (該当する場合)
- 単一のレポートに属するすべてのデータファイルを一覧表示するマニフェストファイル

列の構造

DBR では、列のリストが固定されているため、柔軟性が制限されます。AWS CUR は列の構造が固定されていないため、必要に応じて列を自由に追加または削除できます。新しい AWS のサービスの使用を開始すると、AWS CUR はユースケースに役立つような新しいデータをレポートに動的に含めることができます。マニフェストファイルは、レポート内に存在するすべての列のマップを提供します。

DBR と AWS CUR の対応する列名

DBR 列名	AWS CUR 列名
InvoiceId	bill/InvoiceId
PayerAccountId	bill/PayerAccountId
LinkedAccountId	lineItem/UsageAccountId
ProductName	product/ProductName
SubscriptionId	reservation/subscriptionid
UsageType	lineItem/UsageType
オペレーション	lineItem/Operation
AvailabilityZone	lineItem/AvailabilityZone
ReservedInstance	サポート外
ItemDescription	lineItem/LineItemDescription
UsageStartDate	lineItem/UsageStartDate
UsageEndDate	lineItem/UsageEndDate

DBR 列名	AWS CUR 列名
UsageQuantity	lineItem/UsageAmount
BlendedRate	lineItem/BlendedRate
BlendedCost	lineItem/BlendedCost
UnBlendedRate	lineItem/UnblendedRate
UnBlendedCost	lineItem/UnblendedCost
ResourceId	lineItem/ResourceId
RecordType	サポート外
PricingPlanId	サポート外
RateID	pricing/RateId

Note

AWS CUR には RecordId に相当する列はありませんが、identity/LineItemId、identity/TimeInterval、および bill/BillType を組み合わせて同等の情報を収集できます。

AWS CUR を介した DBR RecordType 値の取得

DBR の RecordType 値	AWS CUR を介して RecordType 値を取得する構文	ユースケース
LineItem	SELECT SUM(line_item_unblended_cost) FROM [CUR] WHERE line_item_line_item_type = 'Usage'	使用状況行項目は、使用コストを 1 回限りの課金から区別します。例: 前払い RI 支払い
InvoiceTotal	SELECT (bill_invoice_id), sum(line_item_unblended_cost) FROM [CUR] GROUP BY bill_invoice_id	請求合計は、請求書とコストと使用状況レポートでコストを一致させるのに役立ちます。
AccountTotal	SELECT line_item_usage_account_id, sum(line_item_unblended_cost) FROM [CUR] GROUP BY line_item_usage_account_id	アカウント合計は、チャージバックの目的でメンバーアカウントに関連するコストを分離するのに役立ちます。
StatementTotal	SELECT SUM(line_item_unblended_cost) FROM [CUR]	ステートメント合計は、請求期間のコストを理解するために役立ちます。
Discount	SELECT SUM(line_item_unblended_cost) FROM [CUR] WHERE line_item_line_item_type = 'Discount'	割引行項目は、割引に関連した行項目を識別するのに役立ちます。
Rounding	まだサポートされていません。	まだサポートされていません。

アドバンス料金タイプのレポート

Refunds

AWS CUR: 返金を確認するには `lineitem/lineitemtype = 'Refund'` 文字列をフィルタリングします。

DBR: クレジットは、`'Credit'` サブストリング。

Credits

AWS CUR: 返金を確認するには `lineitem/lineitemtype = 'Credit'` 文字列をフィルタリングします。

DBR: 返金は、`'Refund'` サブストリング。

Taxes

AWS CUR: 税金を確認するには `lineitem/lineitemtype = 'Tax'` 文字列をフィルタリングします。

DBR: 税は、`'Tax'` サブストリング。

予約関連の前払いコストの確認

AWS CUR: 予約関連の前払い料金を確認するには `"lineitem/lineitemtype" = 'Fee'` をフィルタリングします。

DBR: 予約関連の先行コストは、`'HeavyUsage'` サブ文字列、および `'SubscriptionId'` が null です。

予約関連の月額料金の確認

AWS CUR: 予約関連の月額料金を確認するには `"lineitem/lineitemtype" = 'RIfee'` をフィルタリングします。

DBR: 予約関連の月額料金は、`'HeavyUsage'` サブストリング。

リザーブドインスタンスのメリットを受けたインスタンスを確認する

AWS CUR: 予約関連の前払い料金を確認するには `"lineitem/lineitemtype" = 'DiscountedUsage'` をフィルタリングします。

DBR: 予約関連の前払い手数料はフィルタリングによって特定できます。`'ReservedInstance' = 'Y'`。

未使用予約のコストの確認

AWS のコストと使用状況レポート (AWS CUR) を活用することで、未使用 RI のコストを詳しく確認できます。以下に、その方法を示す 4 つのシナリオを示します。

シナリオ 1 RI使用率100%

RI 料金の明細項目は、未使用コスト \$0、使用時間は 0 です。

DBR/DBR-RT では、RI 料金の明細項目の `UsageQuantity` フィールドと `UnblendedCosts` フィールドを参照して、未使用の RI の使用状況とコストを確認できます。RI 料金の明細項目は、`ItemDescription` フィールドに「購入済み時間」の情報があることで識別できます。表 1 は、DBR レポートと DBR-RT レポートで未使用 RI のコストを管理するために使用する列と情報を示しています。

コストと使用状況レポート ユーザーガイド
未使用予約のコストの確認

表 1 - 2019 年 6 月 17 日以前の DBR と DBR-RT で RI 使用率が 100% である場合の未使用 RI のコスト

ProductName	UsageType	オペレーション	アベイラビリティゾーン	リザーブドインスタンス	ItemDescription	UsageQuantity	非ブランドレート	非ブランドコスト
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunInstances	us-east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge (744 hours purchased, 744 hours used)	0	0.1	0
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunInstances	us-east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge	744	0.1	74.4

AWS CUR では、RI 料金の明細項目の [reservation/UnusedQuantity] フィールドと [reservation/UnusedRecurringFee] フィールドを参照して、未使用 RI の使用状況とコストを確認できます。AWS CUR で未使用 RI のコストを管理するために使用する現在の列と情報については、以下の表 4 に示します。

表 2 - 100%RI 使用のための RI 未使用コスト AWS CUR

lineitem Product	UsageType	lineitem LineItem Fee	lineitem LineItem Usage	lineitem Normalized	lineitem Unblended	reservation Unused	reservation Unused	reservation Unused	reservation Recurring	reservation Amortized	reservation/Unused
Amazon EC2	HeavyUsage	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge	47,616	0.1	74.4	0	0	0			
Amazon EC2	USW2-DiscountedUsage	USD 0.08 hourly	47,616	0					74.4	5	79.4

lineItem Product	Usage	lineItem LineItem	lineItem LineItem	lineItem Usage	lineItem Norma	lineItem Unbler	lineItem Unbler	reserv Unuse	reserv Unuse	reserv Unuse	reserv Recurr	reserv Amorti	reservation/ EffectiveCost	reservation/ EffectiveCost
			fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge											

DBR/DBR-RT でサポートされている現在の機能と同じ機能に加えて、AWS CUR には以下の利点があります。

- AWS CUR では、DiscountedUsage 明細項目の EffectiveCost に関する情報にアクセスできます。これには、定期的な料金と前払い料金の両方が含まれます。DBR では、定期的な料金のみ計算されます。
- AWS CUR では UsageType フィールドが DiscountedUsage 明細項目に変換されませんが、DBR ではその情報が RI 料金の明細項目情報に置き換えられます。これは、ユーザーが ReservationARN 別に AWS CUR の明細項目をグループ化して、どの使用料がどの RI で割引されたかを確認できるためです。
- AWS CUR では、LineItemDescription フィールドが RI 料金の明細項目に変換されません。DBR は、購入した時間数と使用した時間数を追加します。

シナリオ 2 RI 部分使用

RI 料金の明細項目には、未使用コストと使用状況が含まれます。

DBR/DBR-RT では、RI 料金の明細項目の UsageQuantity フィールドと UnblendedCosts フィールドを参照して、未使用 RI の使用状況とコストを確認できます。表 3 は、DBR レポートと DBR-RT レポートで未使用 RI のコストを管理するために使用する列と情報を示しています。

表 3 - 2019 年 6 月 17 日以前に DBR と DBR-RT で RI を部分的に使用した場合の未使用 RI のコスト

ProductName	UsageType	オペレーション	アベイラビリティゾーン	リザーブドインスタンス	ItemDescription	Usage Quantity	非ブレードレート	非ブレードコスト
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunInstances	east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge (744 hours purchased, 644 hours used)	100	0.1	10
Amazon Elastic	HeavyUsage	RunInstances	east-1a	Y	USD 0.10	644	0.1	64.4

ProductName	UsageType	オペレーション	アベイラビリティゾーン	リザーブドインスタンス	ItemDescription	UsageQuantity	非ブレードレート	非ブレードコスト
Compute Cloud					hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge			

AWS CUR では、RI 料金の明細項目の [reservation/UnusedQuantity] フィールドと [reservation/UnusedRecurringFee] フィールドを参照して、未使用 RI の使用状況とコストを確認できます。表 4 は、AWS CUR で未使用 RI のコストを管理するために使用する現在の列と情報を示しています。

表4 – 一部RI使用のRI未使用コスト AWS CUR

lineitem Product	UsageType	lineitem LineItem Fee	lineitem LineItem Usage	lineitem Usage	lineitem Normal	lineitem Unblended	lineitem Unblended	reservation/Unused	reservation/Unused	reservation/Unused	reservation/Recurring	reservation/Amortized	reservation/Effective	reservation/Unblended
Amazon EC2	HeavyUsage	Usage: c3:8xlarge	c3:8xlarge	47,616.1	60.1	74.4	100	0	10					
Amazon EC2	USW2-Discount	Usage: c3:8xlarge	c3:8xlarge	47,216.0	60	0				64.4	5	69.4		

DBR/DBR-RT でサポートされている現在の機能と同じ機能に加えて、AWS CUR には以下の利点があります。

- AWS CUR には、RI料金明細の未使用数量とDBR/DBR-RTを表す別の列があり、使用数量列は未使用時間でオーバーロードされます

シナリオ 3 キャパシティーの予約

RI 料金の明細項目には [UsageQuantity] フィールドと [UnblendedCost] フィールドの未使用金額がすでに含まれているため、RI でカバーする場合、DBR/DBR-RT のキャパシティー予約に関する使用タイプの明

細項目 [UnusedBox] および [UnusedDed] は除外されます。表 5 は、DBR レポートと DBR-RT レポートで未使用 RI のコストを管理するために使用する列と情報を示しています。

表 5 - 2019 年 6 月 17 日以前の DBR と DBR-RT でのキャパシティ予約シナリオにおける未使用 RI のコスト

ProductNa	UsageType	オペレー ション	アベイ ラビリ ティー ゾーン	リザーブ ドインス タンス	ItemDescri	Usage Quantity	非ブレ ンドレ ート	非ブレ ンドコ スト
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunBn	Standard east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge (744 hours purchased, 734 hours used)	10	0.1	1
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunBn	Standard east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge	734	0.1	73.4

AWS CUR では、これらの明細項目を DiscountedUsage と表示します。表 6 は、AWS CUR で未使用 RI のコストを管理するために使用する現在の列と情報を示しています。

表6 – 容量予約シナリオの未使用RIコスト AWS CUR

lineitem/ ProductC	UsageTy	lineitem/ LineItem	lineitem/ LineItem	lineitem/ UsageAr	lineitem/ Normaliz	lineitem/ Unblend	lineitem/ Unblend	reservati Recurrin	reservati Amortize	reservation/ Effective CostForUsage
Amazon EC2	HeavyUsage	Usage: c3: Fee	Usage: c3: 8xlarge	744	47,616	0.1	74.4			

lineitem/ ProductCode	UsageType	lineitem/ LineItem	lineitem/ LineItem	lineitem/ UsageAmount	lineitem/ Normalized	lineitem/ Unblended	lineitem/ Unblended	reservation/ Recurring	reservation/ Amortize	reservation/ EffectiveCost	CostForUsage
Amazon EC2	USW2- Reservation	Usage :c3.8xlarge	USD Charge per Reservation Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge Instance Hour	744		0	0				
Amazon EC2	USW2- BoxUsage	Discount :c3.8xlarge	USD Usage hourly fee per Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge	644	47,216	0	0	64.4	5	69.4	
Amazon EC2	USW2- UnusedBox	Discount :c3.8xlarge	USD Unused Reservation Linux/ UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge Instance Hour	100	6,500	0	0	10	1	11	

シナリオ 4 フレキシブルな予約

DBR/DBR-RT では、RI 料金の明細項目の [UsageQuantity] および [UnblendedCosts] フィールドを参照して、未使用の RI の使用状況やコストを把握することができます。RI 料金の明細項目は、ItemDescription フィールドに「購入済み時間」の情報があることで識別できます。表 9 は、DBR レポートと DBR-RT レポートで未使用 RI のコストを管理するために使用する列と情報を示しています。

表 7 - 2019 年 6 月 17 日以前の DBR と DBR-RT でのサイズ柔軟な RI シナリオにおける未使用 RI のコスト

ProductName	UsageType	オペレーション	アベイラビリティゾーン	リザーブドインスタンス	ItemDescription	Usage Quantity	非ブレンドレート	非ブレンドコスト
Amazon Elastic	HeavyUsage	RunInstances	east-1a	Y	USD 0.10 hourly	100	0.1	10

コストと使用状況レポート ユーザーガイド
未使用予約のコストの確認

ProductName	UsageType	オペレーション	アベイラビリティゾーン	リザーブドインスタンス	ItemDescription	Usage Quantity	非ブランドレート	非ブランドコスト
Compute Cloud					fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge (744 hours purchased, 644 hours used)			
Amazon Elastic Compute Cloud	HeavyUsage	RunInstances	us-east-1a	Y	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge; UsageType: BoxUsage:c3.large	644	0.1	64.4

AWS CUR では、RI 料金の明細項目の [reservation/UnusedQuantity] フィールドと [reservation/UnusedRecurringFee] フィールドを参照して、未使用 RI の使用状況とコストを確認できます。表 8 は、AWS CUR で未使用 RI のコストを管理するために使用する現在の列と情報を示しています。

表10 – のサイズフレックスRIシナリオの未使用RIコスト AWS CUR

lineitem Product	UsageType	lineitem LineItem Fee	lineitem LineItem Usage	lineitem Normal	lineitem Unblended	lineitem Unblended	reservation/Unused	reservation/Unused	reservation/Unused	reservation/Recurring	reservation/Amortized	reservation/Effective	reservation/Unused
Amazon EC2	HeavyUsage	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX (Amazon VPC), c3:8xlarge	47,614	60.1	74.4	100	70.37	5.5					
Amazon EC2	USW2-Discount	USD 0.10 hourly fee per Linux/UNIX	2,576	0	0				4.03	0.5	4.53		

lineitem Product	Usage	lineitem LineItem	lineitem LineItem	lineitem Usage	lineitem Normal	lineitem Unblended	lineitem Unblended	reservation/ Unused	reservation/ Unused	reservation/ Unused	reservation/ Recurring	reservation/ Amortized	reservation/ Effective	reservation/ Cost
			(Amazon VPC), c3:8large											

DBR/DBR-RT でサポートされている現在の機能と同じ機能に加えて、AWS CUR には以下の利点があります。

- AWS CUR には NormalizedUsageAmount と数量が含まれます。DBR/DBR-RT にはこれを表す列はありません。
- AWS CUR の [UsageType] および [Operation] は、[DiscountedUsage] 明細項目に変換されません。DBR/DBR-RT では、これらの値は、RI 料金の明細項目に置き換わります。
- AWS CUR の [LineItemDescription] は、[DiscountedUsage] 明細項目に変換されません。DBR / DBR-RT では、RI 料金明細の説明に置き換わり、DiscountedUsage 明細の Usage Type を文字列の末尾に追加します。すなわち、「Linux/UNIX(Amazon VPC)、c3:8large、UsageType: BoxUsage:c3.large」

毎月のレポート

Billing and Cost Management コンソールの [Bills] ページから AWS 見積料金の月別レポートをダウンロードできます。

の一括請求機能を使用する場合 AWS Organizations このレポートは、マスターアカウントすべてのメンバーアカウントのアクティビティが含まれます。メンバーアカウント所有者は、マスターアカウントの詳細については、以下を参照してください。 [組織の統合請求](#) の AWS Billing and Cost Management ユーザーガイド。

レポートには、アカウントが使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの固有の組み合わせごとに明細項目が表示されます。見積りレポートは毎日数回更新されます。お客様が月別レポートを取得するためにサインアップされた月を開始月とし、ステートメントの期間を選択することで、過去の月次レポートを取得できるようになります。サインアップする前からのレポートは利用できません。

毎月のコスト配分

Important

毎月のコスト配分レポートは後日利用できなくなります。代わりに「AWS のコストと使用状況レポート」を使用することを強くお勧めします。

AWS 使用量のビジネスディメンションを示すことができる、AWS リソースのカスタムコスト配分タグセットを作成できます。これらのタグセットによって、AWS コストを整理および追跡できます。AWS の多くのサービスでは、機能セットに含まれているタグ付けを利用できます。これらのサービスでタグを作成するには、コンソール、API、または AWS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用します。詳細については、AWS Billing and Cost Management ユーザーガイドの「[コスト配分タグの使用](#)」を参照してください。

タグを作成すると、毎月のコスト配分レポートを取得できます。これは、基本的にコスト配分タグセットが含まれた月別レポートです。

AWS の使用状況レポート

Important

AWS の使用状況レポートは後日利用できなくなります。代わりに「AWS のコストと使用状況レポート」を使用することを強くお勧めします。

動的に生成された AWS 使用状況レポートをダウンロードできます。各レポートは単一のサービスが対象であり、表示する使用タイプ、オペレーション、期間などを選択できます。また、データの収集方法も選択できます。

カスタマーサポートへの問い合わせ

AWS Billing and Cost Management や AWS のコストと使用状況レポート に関する質問のヘルプを得るには、次のリソースを使用します。

- [AWS ナレッジセンター](#): これは、AWS CUR や請求に関する質問の回答を最もすばやく見つける方法です。ここから始めることをお勧めします。
- アカウントと請求のサポート: AWS アカウントを所有している場合は、アカウントと請求のサポートを無料で利用できます。個別の技術サポートのみがサポートプランを必要とします。詳細については、[AWS サポート ウェブサイト](#)をご覧ください。
- サポートケースを開く: AWS サポート に連絡して問い合わせのサポートケースを開くことができます。これは、AWS サポート と通信するための最も直接的な方法です。AWS サポート は、担当者に連絡するための直接電話番号を公開していませんが、次の手順に従って電話してもらうことができます。

Note

AWS サポート ケースを開き、[Regarding: Account and Billing Support] を指定するには、ルートアカウント所有者として AWS にサインインしているか、サポートケースを開くための IAM アクセス許可を持っている必要があります。詳細については、AWS サポートユーザーガイドの「[AWS サポートへのアクセス](#)」を参照してください。

AWS サポートに問い合わせるには

1. サインインして[AWS サポートセンター](#)に移動します。プロンプトが表示されたら、ご利用のアカウントのメールアドレスとパスワードを入力します。
2. [Open a new case] を選択します。
3. [Open a new case] ページで、[Account and Billing Support] を選択し、フォームの必須フィールドに入力します。
4. 返答方法を選択します。
 - ウェブ: AWS サポート 担当者から E メールで返信してもらいます。
 - 電話: AWS サポート 担当者から電話してもらいます。

Note

インスタントメッセージは、請求に関するお問い合わせにはご利用いただけません。AWS アカウントを解約した後でも、サインインしてカスタマーサポートに問い合わせたり、過去の請求を確認したりできます。

AWS のコストと使用状況レポート のセキュリティ

AWS では、クラウドのセキュリティが最優先事項です。AWS のお客様は、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャから利点を得られます。

AWS のコストと使用状況レポートは AWS Billing and Cost Management コンソールの機能です。セキュリティに関する考慮事項の詳細については、AWS Billing and Cost Management ユーザーガイドの「[AWS Billing and Cost Management のセキュリティ](#)」を参照してください。

AWS CUR を使用するためのアクセスコントロールと IAM アクセス許可の詳細については、「[アクセス許可の管理の概要](#)」を参照してください。

クォータと制限

次の表に、AWS のコストと使用状況レポート 内の現在のクォータと制限を示します。

コストと使用状況レポート

コストと使用状況レポート の数	アカウントあたり 10 個
レート	コストと使用状況レポート は無料ですが、Amazon S3 の標準料金が適用されます。
無料利用枠の数 AWS のコストと使用状況レポート	10*

AWS のコストと使用状況レポート ユーザーガイドのドキュメント履歴

次の表は、AWS のコストと使用状況レポート の今回のリリース内容をまとめたものです。

ドキュメント最新更新日 2020年2月10日

update-history-change	update-history-description	update-history-date
セキュリティに関する新しい章	さまざまなセキュリティ制御に関する情報を提供する新しいセキュリティの章を追加しました。この章に、以前の「アクセス制御」章の内容を移行しました。	February 10, 2020
初回起動 (p. 78)	Billing and Cost Management ガイドからすべての AWS CUR コンテンツを移行し、再編成しました。	January 21, 2020

AWS の用語集

最新の AWS の用語については、『AWS General Reference』の「[AWS の用語集](#)」を参照してください。

英語の翻訳が提供されている場合で、内容が矛盾する場合には、英語版がオリジナルとして取り扱われます。翻訳は機械翻訳により提供されています。